

# 室蘭市立地適正化計画 防災指針骨子（案）

---

# 目次

## 0. はじめに

## 1. 立地適正化計画 防災指針の役割

## 2. ハザード情報の整理

## 3. 災害による危険性の高い地域の分析

## 4. 災害別の課題

## 5. 取り組み方針（案）

## 6. 地域別の取組（案）

## 7. 防災まちづくりの目標値（案）

# 目次

## 0. はじめに

1. 立地適正化計画 防災指針の役割
2. ハザード情報の整理
3. 災害による危険性の高い地域の分析
4. 災害別の課題
5. 取り組み方針（案）
6. 地域別の取組（案）
7. 防災まちづくりの目標値（案）

室蘭市では、2023（令和5）年度に「室蘭市立地適正化計画」の中に「防災指針」を追加する改定を行う予定です。

この骨子案は、その追加する防災指針の骨子を示すものです。

### 室蘭市立地適正化計画の改定に関する背景

2014（平成26）年	都市再生特別措置法の改正により、立地適正化計画が制度化
2019（平成31）年3月	室蘭市立地適正化計画を策定
2020（令和2）年	同法の改正により、立地適正化計画の記載事項として「防災指針」が追加
2023（令和5）年度	室蘭市立地適正化計画の5年に一度の進捗確認とともに防災指針を追加する改定

# 目次

0. はじめに

**1. 立地適正化計画 防災指針の役割**

2. ハザード情報の整理

3. 災害による危険性の高い地域の分析

4. 災害別の課題

5. 取り組み方針（案）

6. 地域別の取組（案）

7. 防災まちづくりの目標値（案）

# 1. 立地適正化計画 防災指針の役割

- 立地適正化計画の中で示す「防災指針」は、既存計画と以下に示す違いがある。

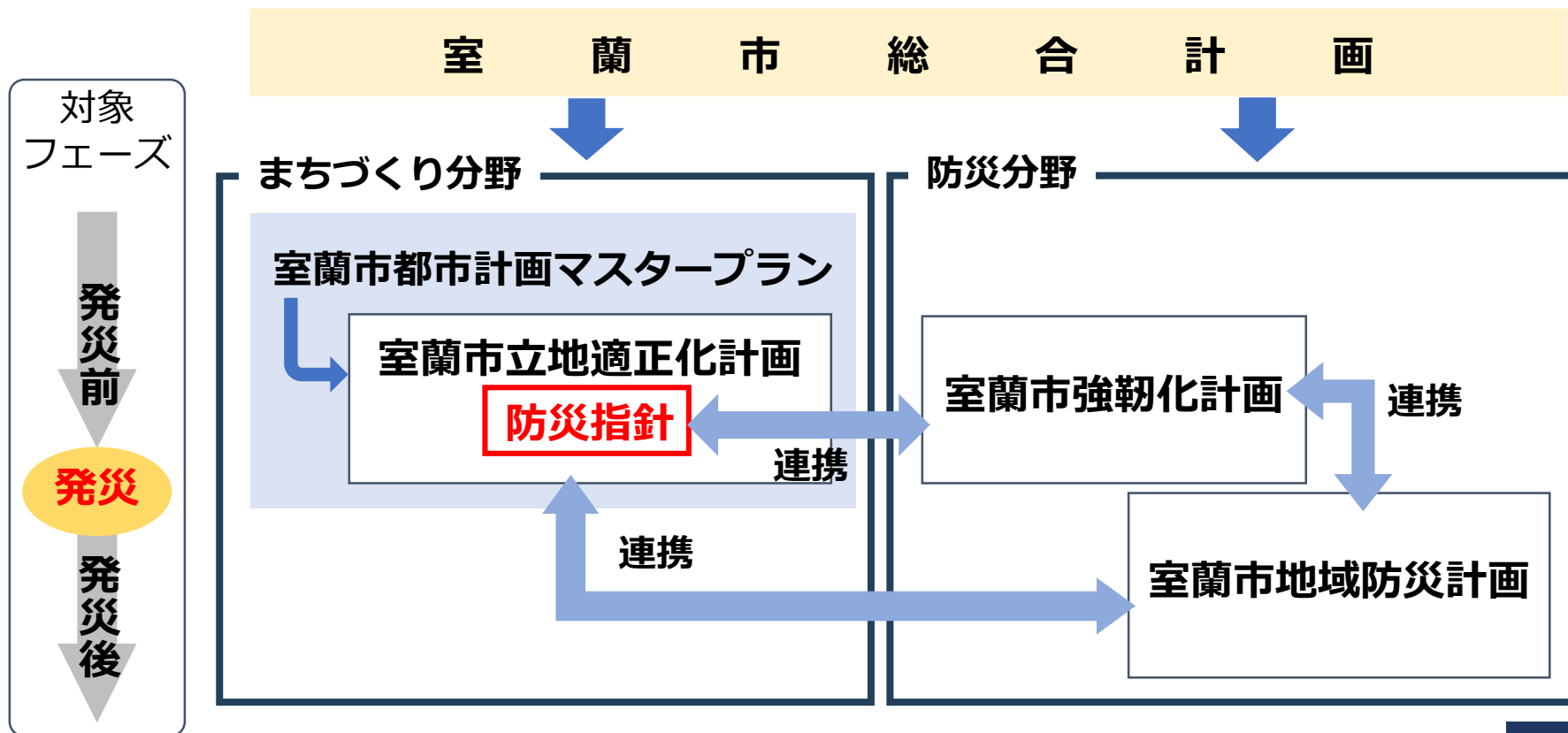
計画	目的	特徴
立地適正化計画 (防災指針)	近年、全国で地震や風水害が頻発・激甚化していることを踏まえ、居住や都市機能の誘導を図る上で必要となる都市の防災に関する機能の確保を図る。	居住誘導区域および都市機能誘導区域における災害リスクをできる限り回避あるいは低減させる。
室蘭市強靱化計画	「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」に基づき、大規模自然災害等のリスクを減らすための事前防災・減災と迅速な復旧・復興に資する取組みを総合的・計画的に実施し、災害に強いまちづくりを築く。	本市で想定されるあらゆる自然災害を見据え、最悪な事態に陥る事が避けられるように、事前に具体的な施策（取組み）を定めたもの。
室蘭市地域防災計画	地震、風水害などから市民の生命、身体及び財産を保護し、災害の予防、被害の軽減、応急対策及び復旧に関する一連の防災活動を防災関係機関や市民が自ら適切に実施するための事項を定める。	地震や洪水などのリスクを特定し、主に災害が発生した後、そのリスクに対しどのように対応するのかをとりまとめたもの。

# 1. 立地適正化計画 防災指針の役割

## 防災指針の基本的な考え方：

室蘭市における防災指針は、まちなかの災害リスクの理解を通じた住民の防災意識の向上、および市の防災分野の取組みをまちづくりの観点で整理しなおすことを目的とします。

### 防災指針の位置づけ



# 目次

0. はじめに

1. 立地適正化計画 防災指針の役割

**2. ハザード情報の整理**

3. 災害による危険性の高い地域の分析

4. 災害別の課題

5. 取り組み方針（案）

6. 地域別の取組（案）

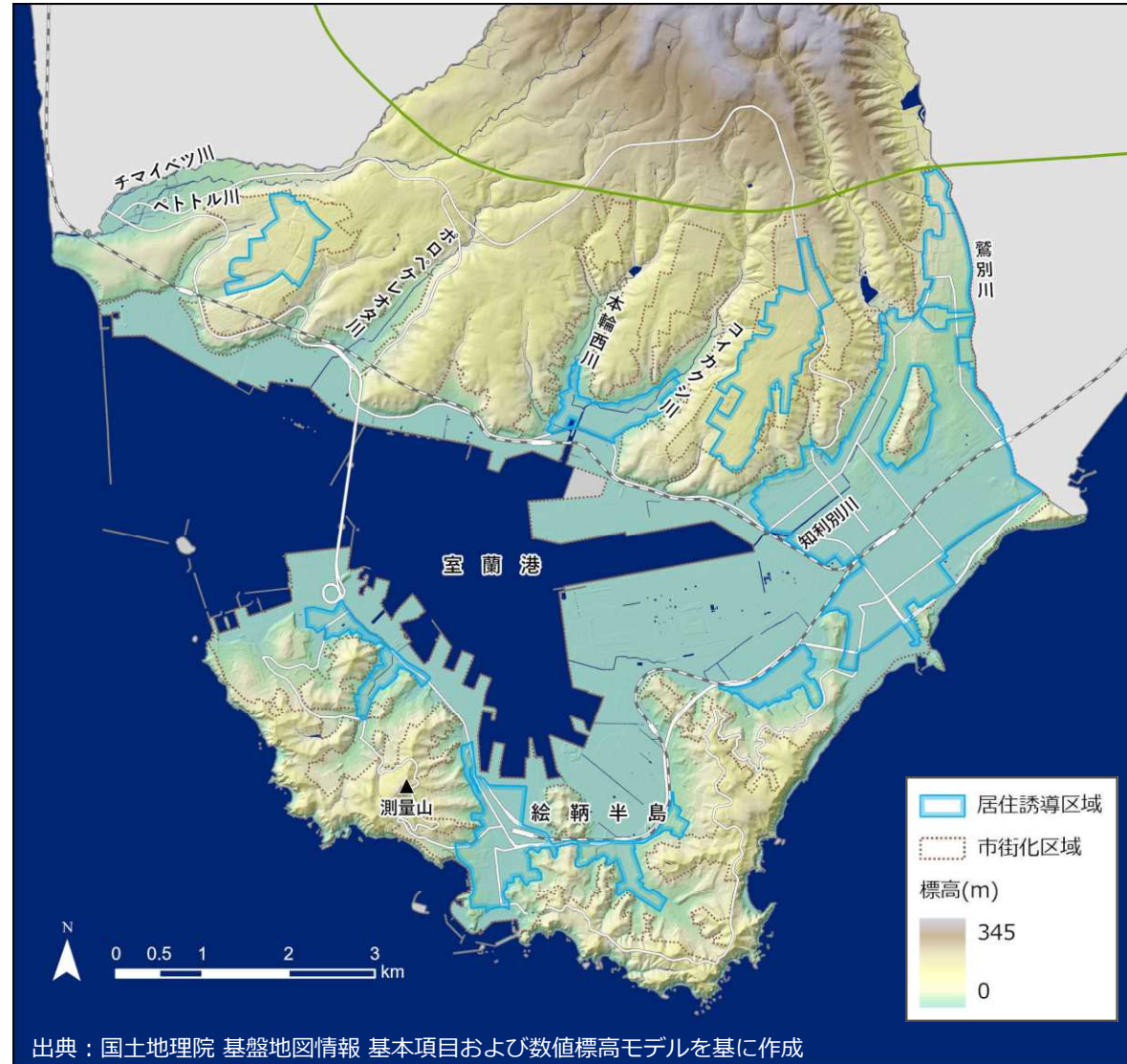
7. 防災まちづくりの目標値（案）



## 2. ハザード情報の整理

### (1) 地勢

- 室蘭港を囲むように平地が広がり、建物や工場施設が密集している。
- 東室蘭駅周辺一体は平地となっており、標高は2~3m程度と低い。
- 蘭西、蘭北地域には沢地形が広がり、沢沿いに住宅が張り付いている。
- 居住誘導区域のある八丁平や白鳥台は平地よりも標高の高い場所に位置している。



## 2. ハザード情報の整理

### (2) 洪水浸水想定区域 想定最大規模※

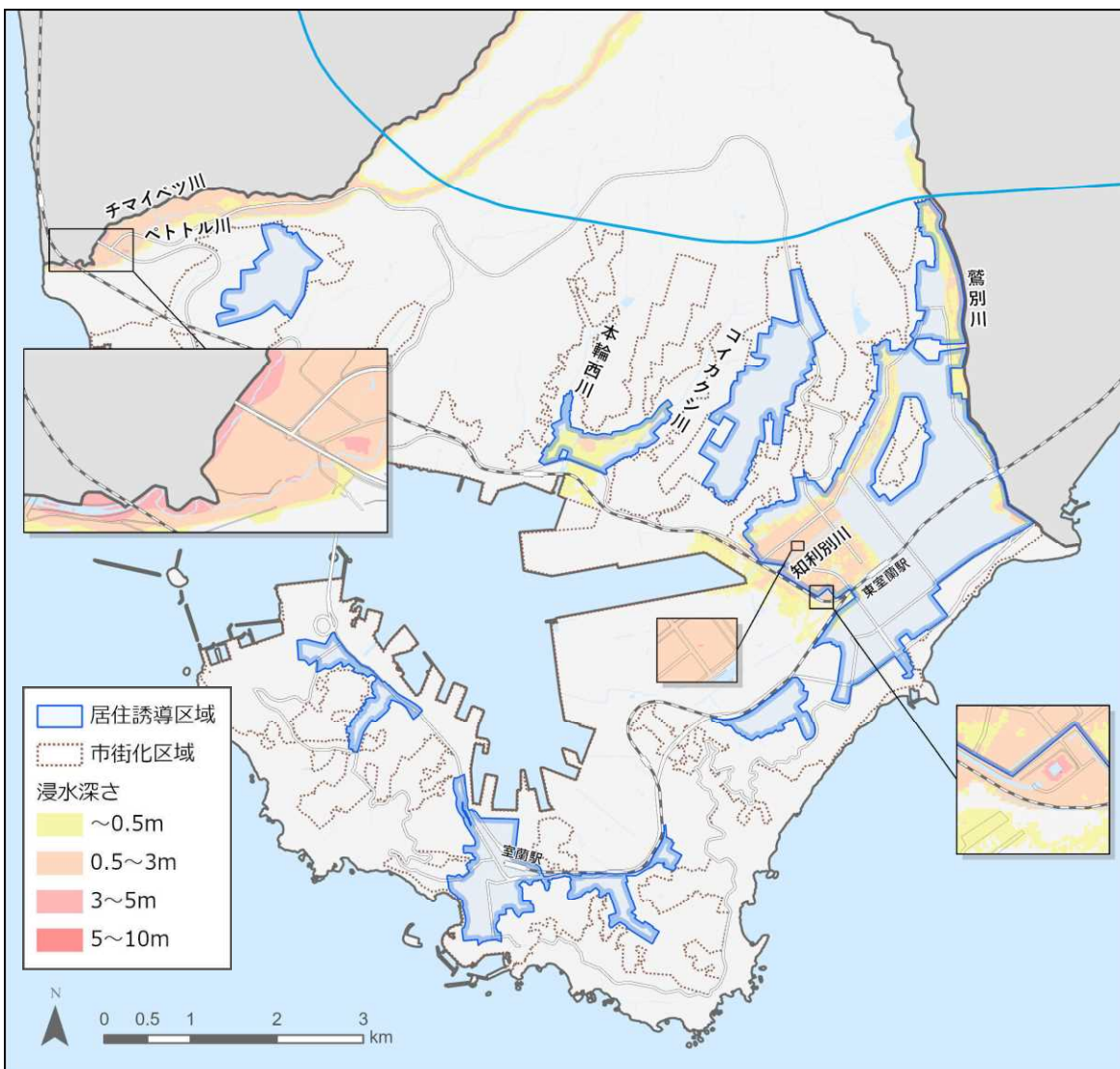
- チマイベツ川・ペトルル川の浸水区域の一部で垂直避難が困難となる浸水深3m以上の区域がみられるが、居住誘導区域外である。
- 知利別川の浸水区域については、誘導区域内にもわずかに浸水深3m以上の区域がみられる。

洪水災害：大雨等で川を流れる水が急に増え、その水が堤防などを越えてあふれ出ることを洪水といい、この現象により様々な被害をもたらす災害のこと。  
 想定最大規模：1000年に1回程度の割合で発生する降雨を想定。1年の発生確率が1/1000(0.1%)であり、発生確率は小さいが、規模が大きいため、最悪の事態を想定し、想定最大規模を用いる。

※ コイカクシ川、本輪西川については想定最大規模のデータがないため計画規模



出典：浸水ナビHPを基に作成



出典：室蘭市オープンデータライブラリ(洪水浸水深さ)、室蘭市所有データ(鷺別川、チマイベツ川)を基に作成

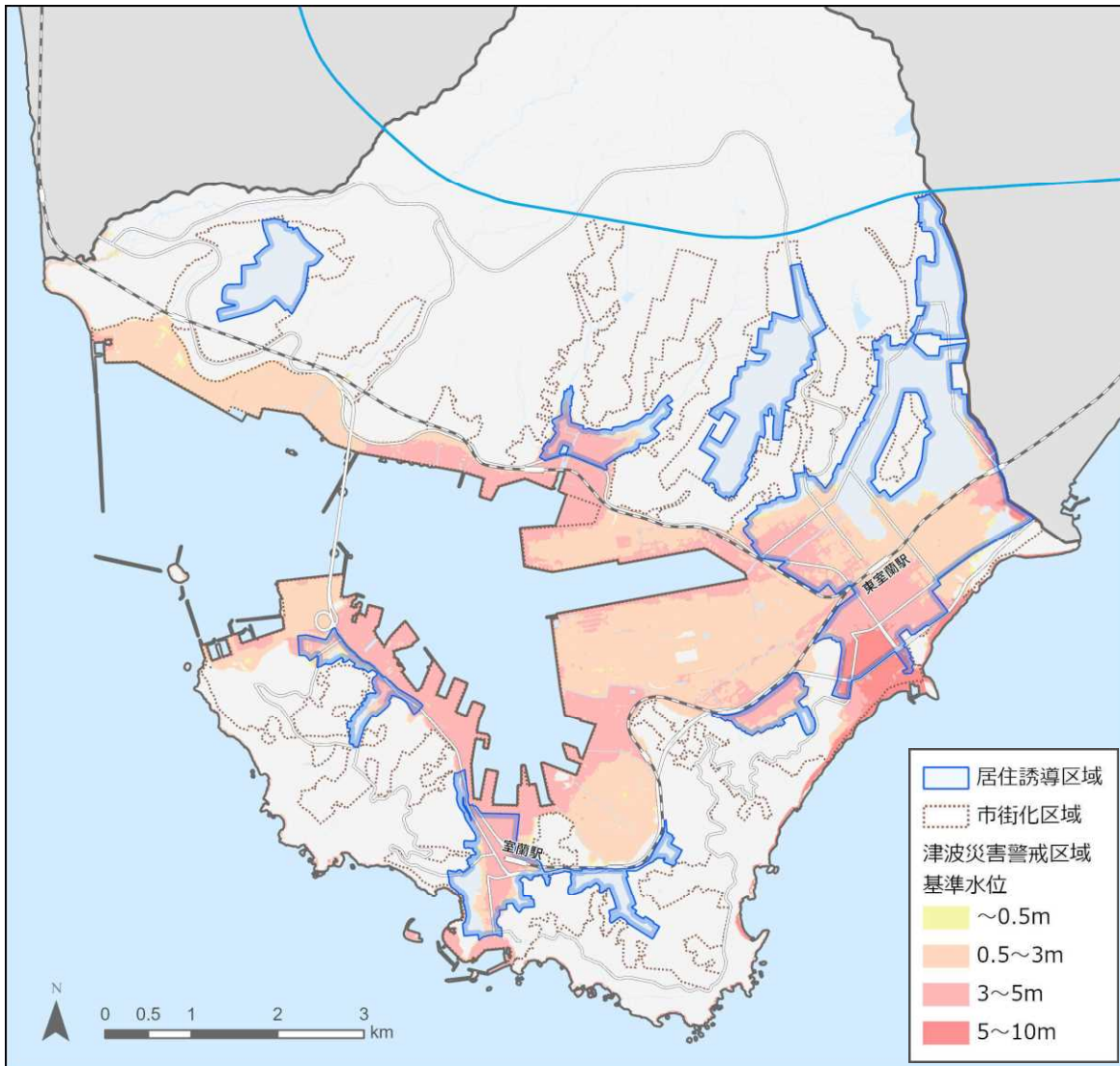


## 2. ハザード情報の整理

### (3) 津波災害警戒区域（基準水位）

- 居住誘導区域の複数の地域で垂直避難が困難となる浸水深3m以上の区域がみられる。
- 特に東室蘭駅の南部（東町付近）では一般的な家屋の2階が浸水する5m以上の浸水深が想定されている。

津波災害：海底で発生する地震に伴い、海水が上下に変動することによって引き起こされる津波が、沿岸に達して人や建物などを流れに巻き込み被害をもたらす災害のこと。  
太平洋沿岸で発生する「最大クラスの津波」を想定。数100年から1,000年に1度程度の頻度で到達する津波で、発生頻度は低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす危険性があることから、最悪の事態を想定し「最大クラスの津波」を用いる。

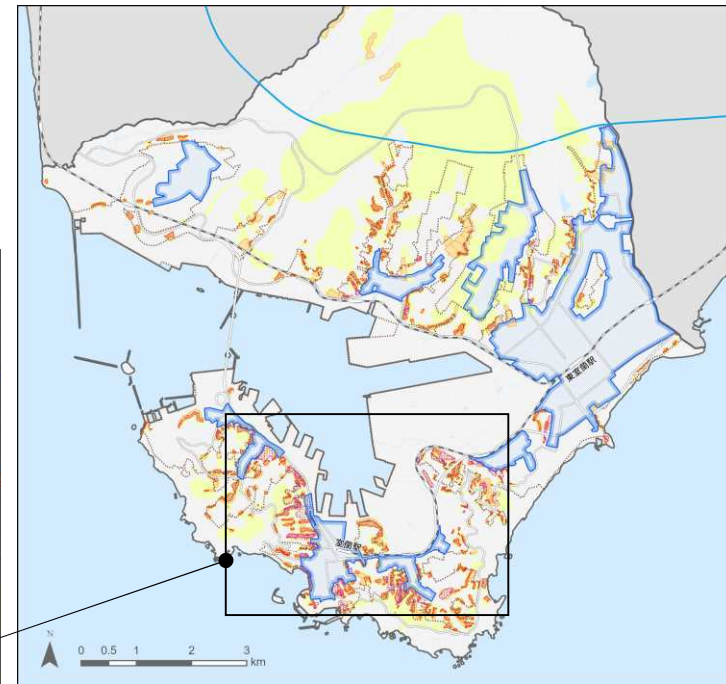
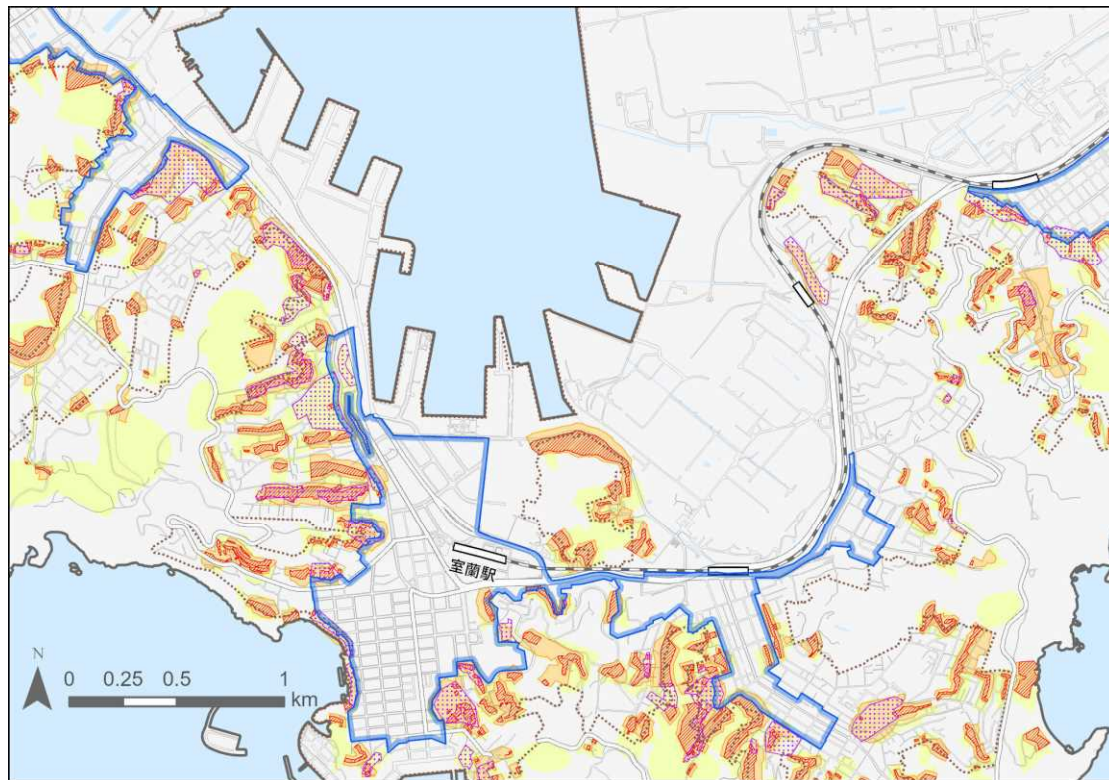


出典：室蘭市オープンデータライブラリ(津波基準水位)を基に作成

## 2. ハザード情報の整理

### (4) 土砂災害によるハザード区域

- 市内居住誘導区域において、平成30年度の計画策定以降、土砂災害特別警戒区域の新たな指定や急傾斜地崩壊危険区域※の存在が確認されており、特に蘭西地区で多く存在している。



土砂災害：大雨や地震などが引き金となって、山やがけがくずれたり、くずれた土砂が雨水や川の水と混じって流れてきたりすることで人や建物等に被害をもたらす災害のこと。



※ 急傾斜地崩壊危険区域は、対策済みの箇所があり、すべてを居住誘導区域から除外するものではない

出典：室蘭市オープンデータライブラリ(土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域)、国土数値情報(急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害危険箇所)を基に作成



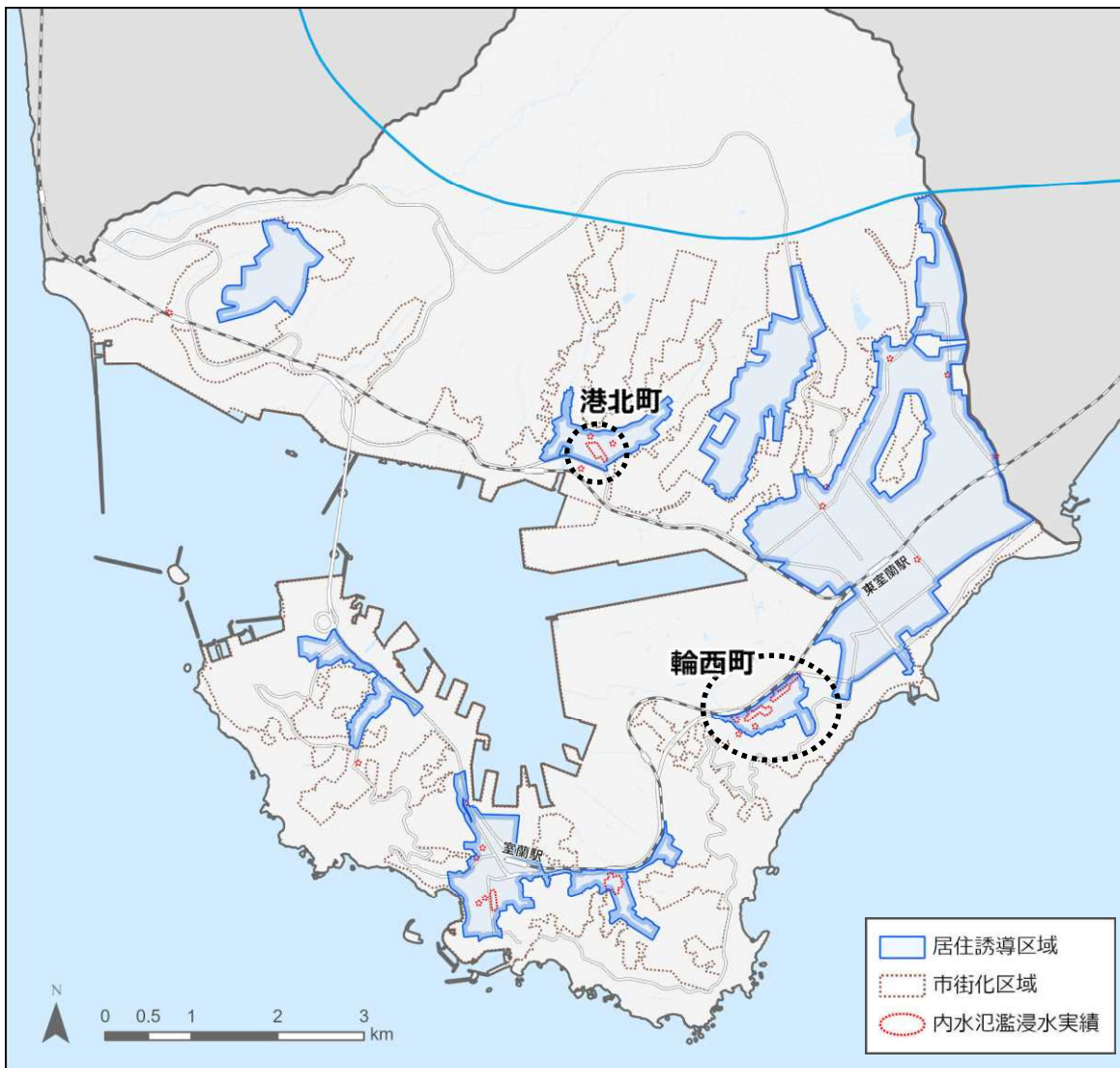
## 2. ハザード情報の整理

### (5) 内水氾濫の浸水実績区域

- 内水氾濫の浸水実績は、居住誘導区域内にも存在している。
- 特に輪西町や港北町付近にまとまった浸水実績区域がある。

内水：  
道路や下水道等の排水施設の能力を超えた雨が降ったときや、雨水の排水先の河川の水位が高くなったときなどに、雨水が排水できなくなり、建物や土地、道路などが浸水する現象。

本市では、現在、内水ハザードマップの作成を進めており、令和6年度に公表する予定である。



出典：室蘭市ハザードマップ(内水氾濫 浸水実績図)を基に作成

# 目次

0. はじめに

1. 立地適正化計画 防災指針の役割

2. ハザード情報の整理

**3. 災害による危険性の高い地域の分析**

4. 災害別の課題

5. 取り組み方針（案）

6. 地域別の取組（案）

7. 防災まちづくりの目標値（案）

### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

- 各種ハザード情報と都市の情報を組み合わせることによって、様々な災害リスクを分析する。

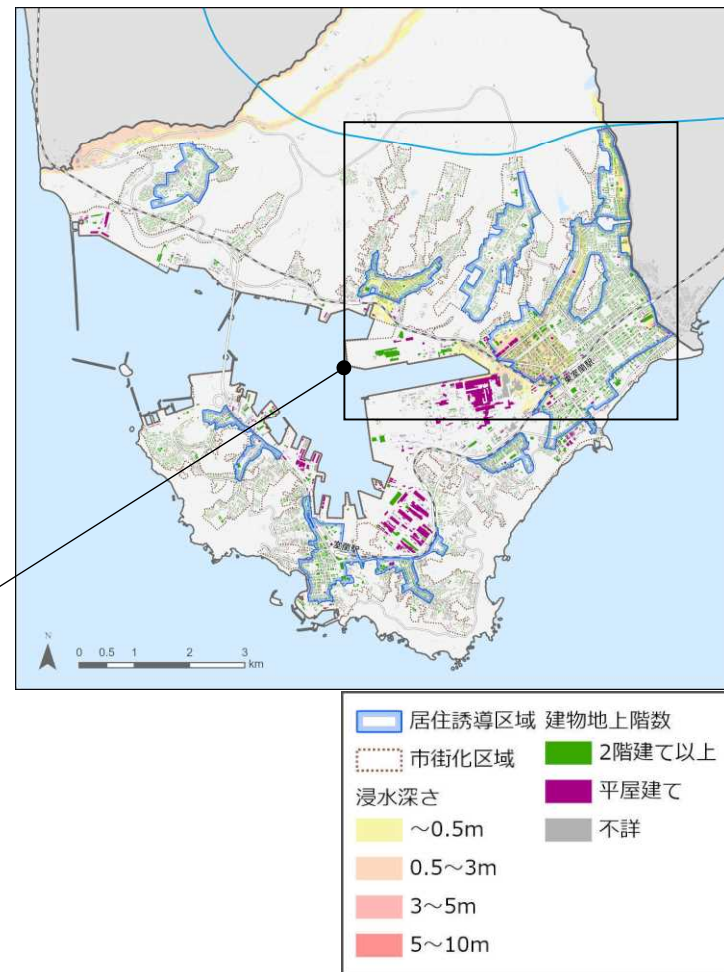
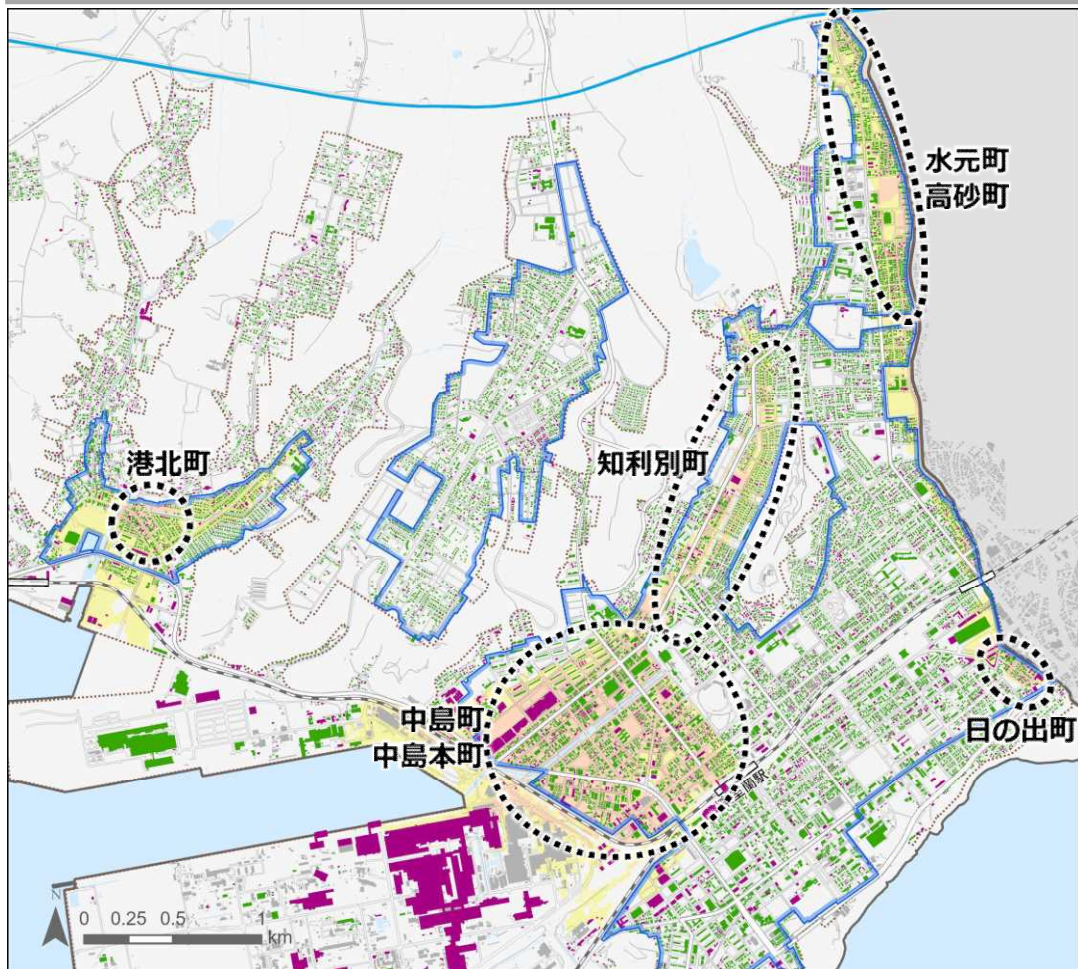
No	情報1	×	情報2	×	情報3	分析視点
1	洪水浸水深	×	建物階数			垂直避難可否
2	洪水浸水深	×	避難施設			避難施設の活用可否
3	洪水浸水深	×	要配慮者利用施設			継続利用可否、避難支援要否
4	洪水浸水深	×	人口分布、高齢者分布			避難支援地域
5	洪水浸水深	×	アンダーパス			避難路活用、孤立地域有無
6	洪水浸水深	×	緊急輸送道路			避難・救援経路の確保
7	洪水浸水深	×	誘導施設			従業員等の安全、都市機能の継続性の確保
8	家屋倒壊等氾濫想定区域	×	建物分布・建物構造			家屋倒壊のリスク
9	津波浸水深	×	建物構造			家屋流失の危険性
10	津波浸水深	×	避難施設			避難施設の活用可否
11	津波到達時間	×	道路網	×	避難施設	避難可能エリア
12	津波浸水深	×	要配慮者利用施設			継続利用可否、避難支援要否
13	津波浸水深	×	人口分布、高齢者分布			避難支援地域
14	津波浸水深	×	アンダーパス			避難路活用、孤立地域有無
15	津波浸水深	×	緊急輸送道路			避難・救援経路の確保
16	津波浸水深	×	誘導施設			従業員等の安全、都市機能の継続性の確保
17	土砂災害警戒区域	×	建物分布			家屋倒壊のリスク
18	土砂災害警戒区域	×	道路網			孤立リスク
19	道路勾配（急勾配箇所）	×	避難施設			冬期避難の困難エリア （特に高齢者徒歩）
20	避難施設	×	避難圏域人口	×	避難施設容量	避難所収容人数の過不足



### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (1) 洪水浸水深×建物階数 | 垂直避難可否

- 浸水深0.5m以上3m未満の区域では、床上浸水の危険性はあるものの、地上2階建て以上の建物が多く分布しており、2階以上の建物への垂直避難が可能なエリアが多い。



※ コイカクシ川、本輪西川については計画規模  
そのほかの河川は想定最大規模

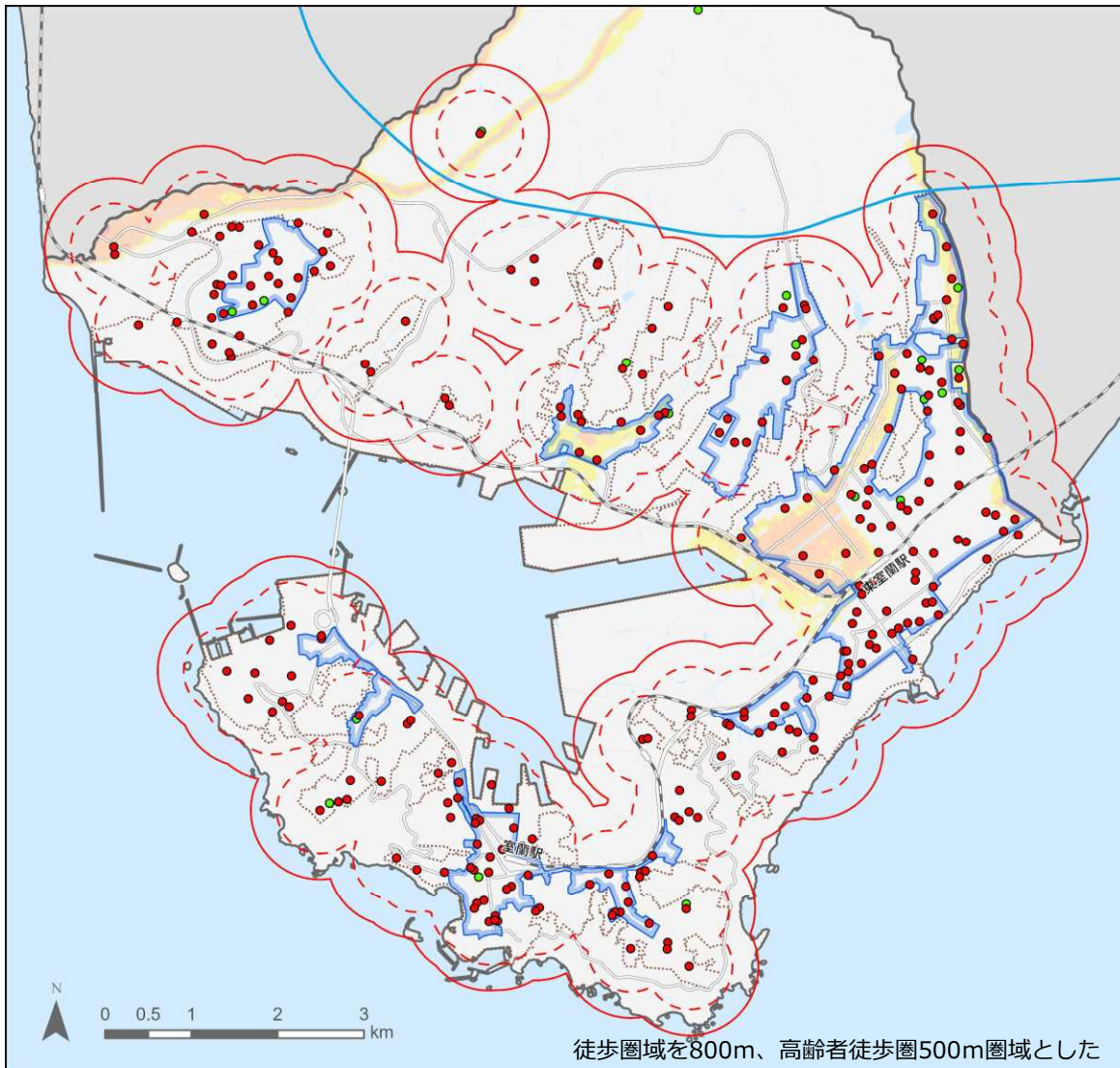
出典：室蘭市オープンデータライブラリ(洪水浸水深さ)、  
室蘭市所有データ(鷲別川、チマイベツ川)、  
平成27年都市計画基礎調査を基に作成



### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (2) 洪水浸水深×避難施設 | 避難施設の活用可否

- 居住誘導区域内の洪水浸水区域は、洪水災害時、または災害のおそれがあるときに、一時的に避難する避難場所に含まれる。

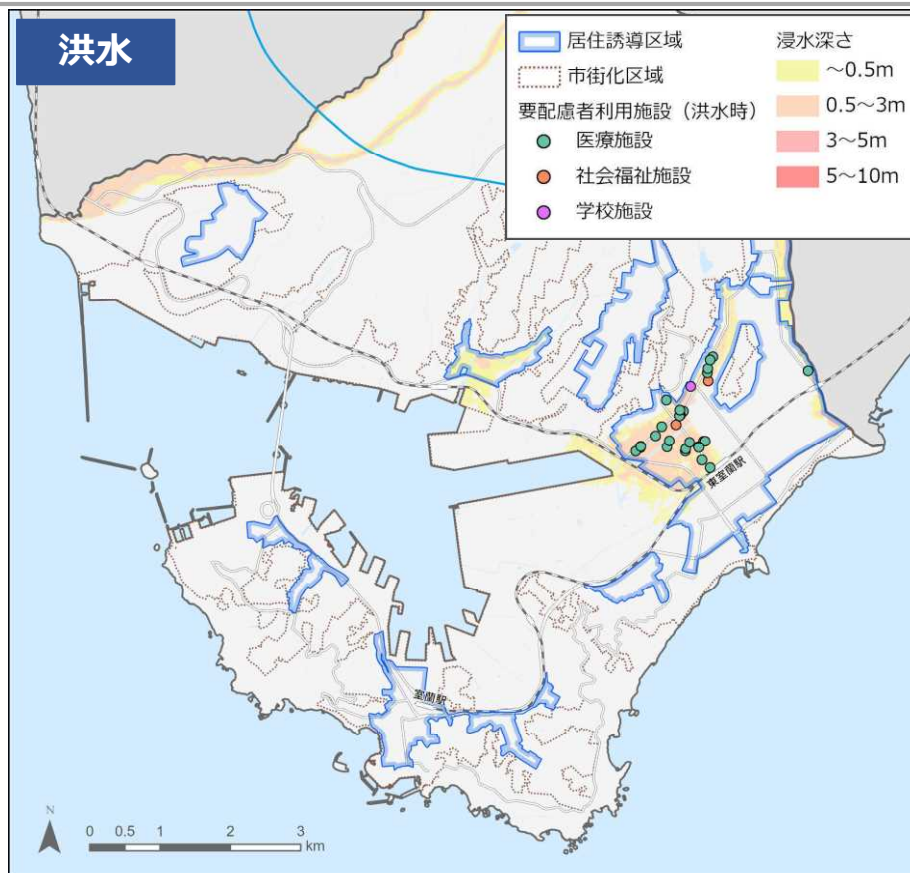


出典：室蘭市オープンデータライブラリ(洪水浸水深さ)、  
室蘭市所有データ(鷺別川、チマイベツ川)を基に  
作成

### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (3) 洪水浸水深×要配慮者利用施設 | 継続利用可否、避難支援要否

- 東室蘭駅の北側は、洪水浸水エリアとなっており、また医療施設の分布も多いため、要配慮者利用施設が集積している。
- これらの施設は、健康や生命維持等に欠かせない医療施設や、日常的な生活を支える施設等を含み、サービスの維持・継続の必要性が高いため、被災後の継続利用についても検討が必要である。



**要配慮者利用施設：**  
社会福祉施設、学校、医療施設、その他の主として防災上の配慮を要する者\*が利用する施設のこと  
で、これらの施設については、避難確保計画の作成等が義務付けられている。  
※高齢者、障がい者、乳幼児、妊産婦、外国人などが想定され、配慮が必要な程度も様々であり、要配慮者利用施設では、利用する要配慮者の類型や程度を考慮した計画策定が求められる

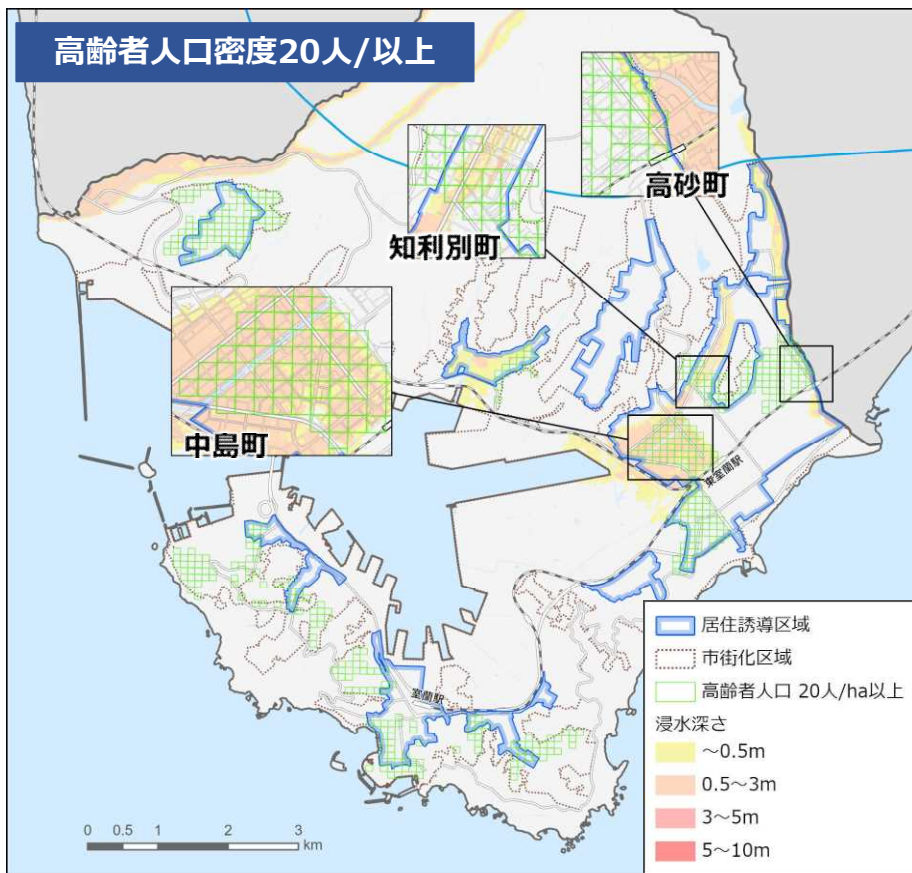
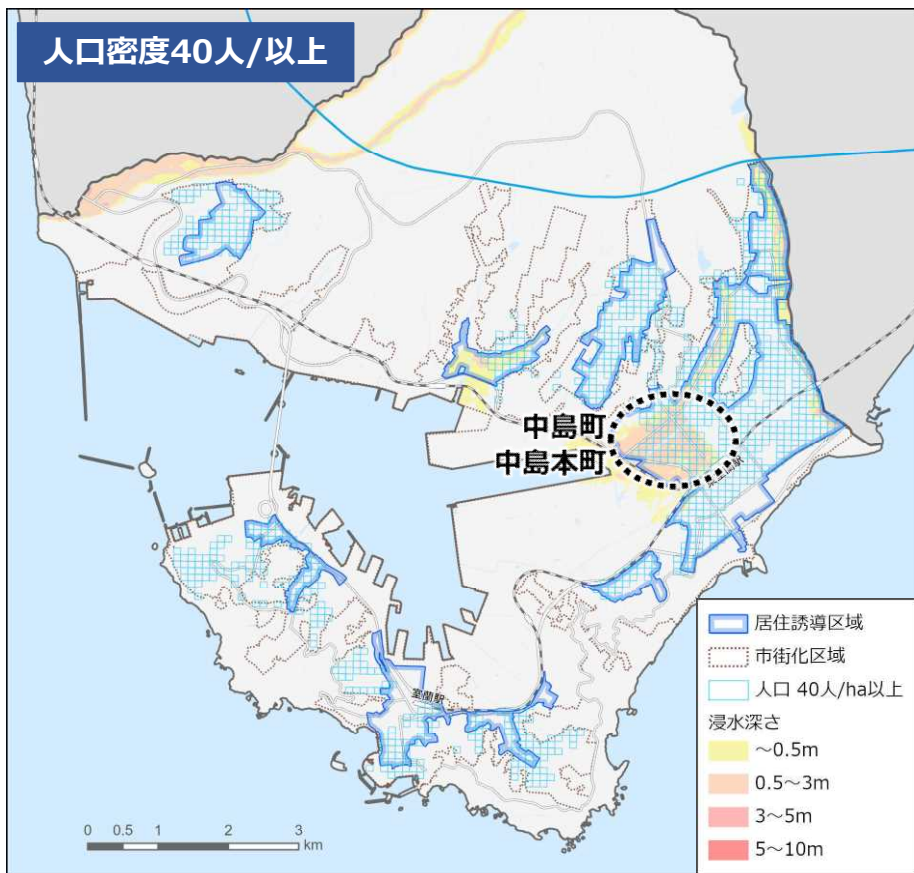
出典：室蘭市オープンデータライブラリ(洪水浸水深さ)、室蘭市所有データ(鷺別川、チマイベツ川)、室蘭市所有データ(要配慮者利用施設)を基に作成



### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (4) 洪水浸水深×人口密度・高齢者人口密度 | 避難支援地域

- 中島町および中島本町など人口密度40人/ha以上の人口集積地でも0.5m以上の床上浸水が想定される。
- 特に中島町の広い範囲をはじめ、知利別町や高砂町の一部では、高齢者人口密度が高い区域での床上浸水が想定されている。

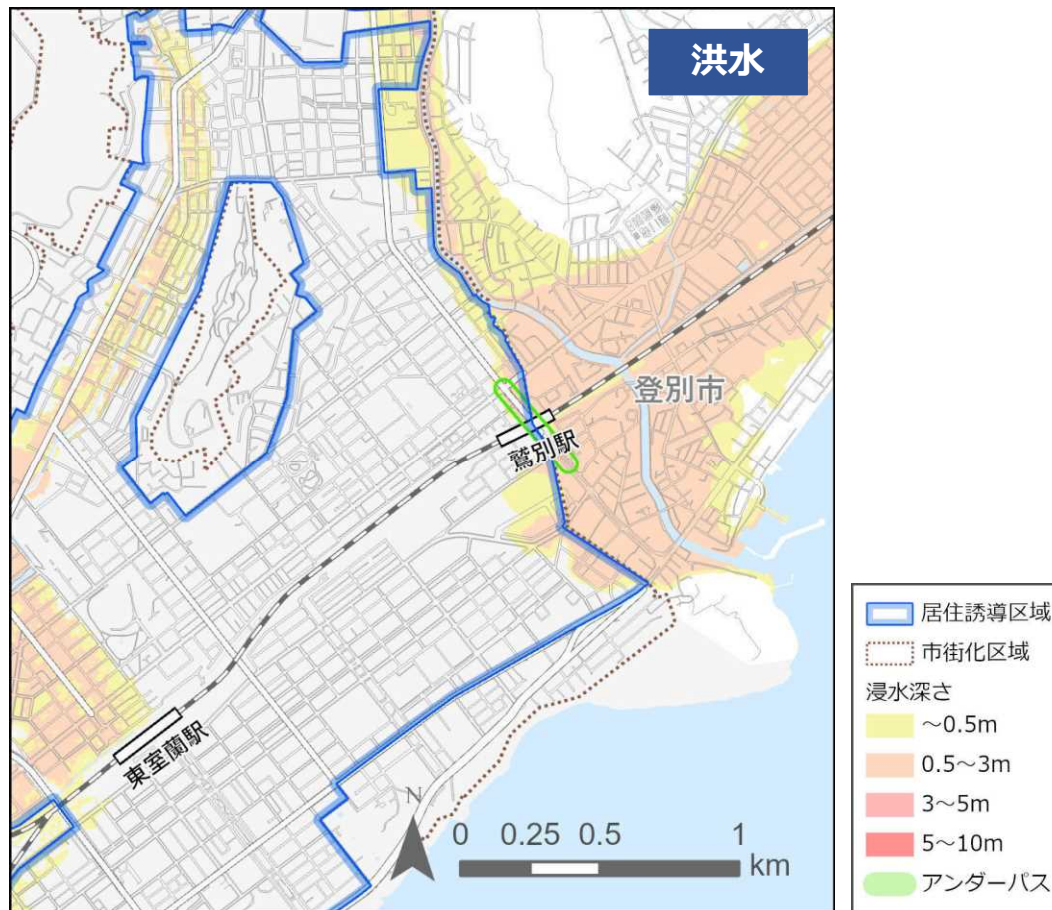


出典：室蘭市オープンデータライブラリ(洪水浸水深さ)、室蘭市所有データ(鷺別川、チマイベツ川)、令和2年国勢調査を基に作成

### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (5) 洪水浸水深×アンダーパス | 避難路活用、孤立地域有無

- 本市と登別市をまたぐ道道107号室蘭環状線に鷺別アンダーパスがあり、洪水災害発生時には避難路としての利用が困難となることが想定される。

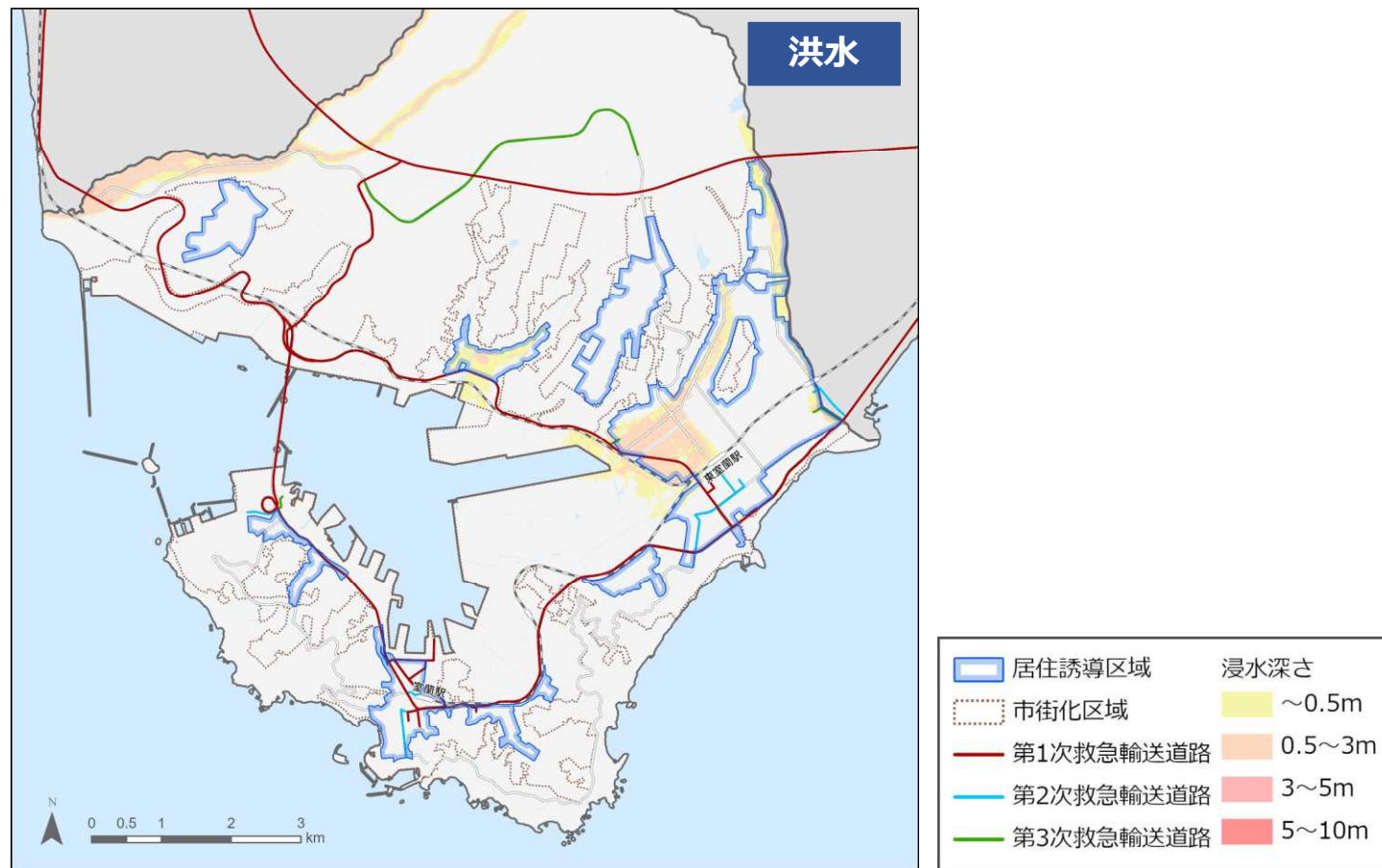


出典：室蘭市オープンデータライブラリ(洪水浸水深さ)を基に作成

### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (6) 洪水浸水深×緊急輸送道路 | 避難・救援経路の確保

- 中島町周辺や港北町の第1次緊急輸送道路（国道37号）は洪水浸水想定区域に含まれるものの、孤立する地域はなく緊急輸送道路を利用して避難・救援が可能である。



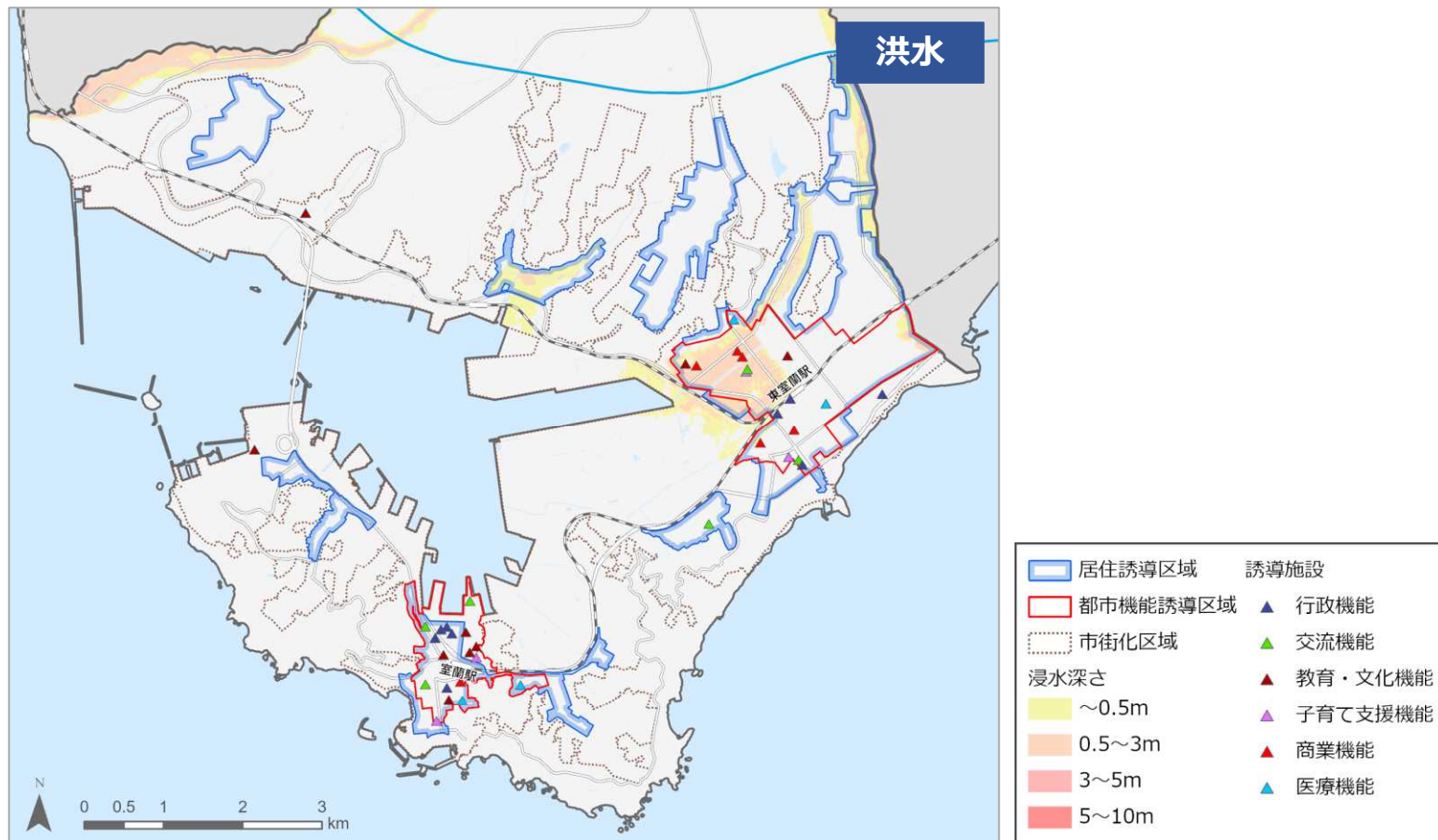
出典：室蘭市オープンデータライブラリ(洪水浸水深さ)を基に作成



### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (7) 洪水浸水深×誘導施設 | 従業員等の安全、都市機能の継続性の確保

- 中島町の浸水深さ0.5mを超えるエリアには、誘導施設のうち商業施設が集積している。その他、交流施設や子育て支援施設も立地している。
- 商業系機能が集積する中島町では、居住者のみならず従業員の安全確保を考えることが重要である。

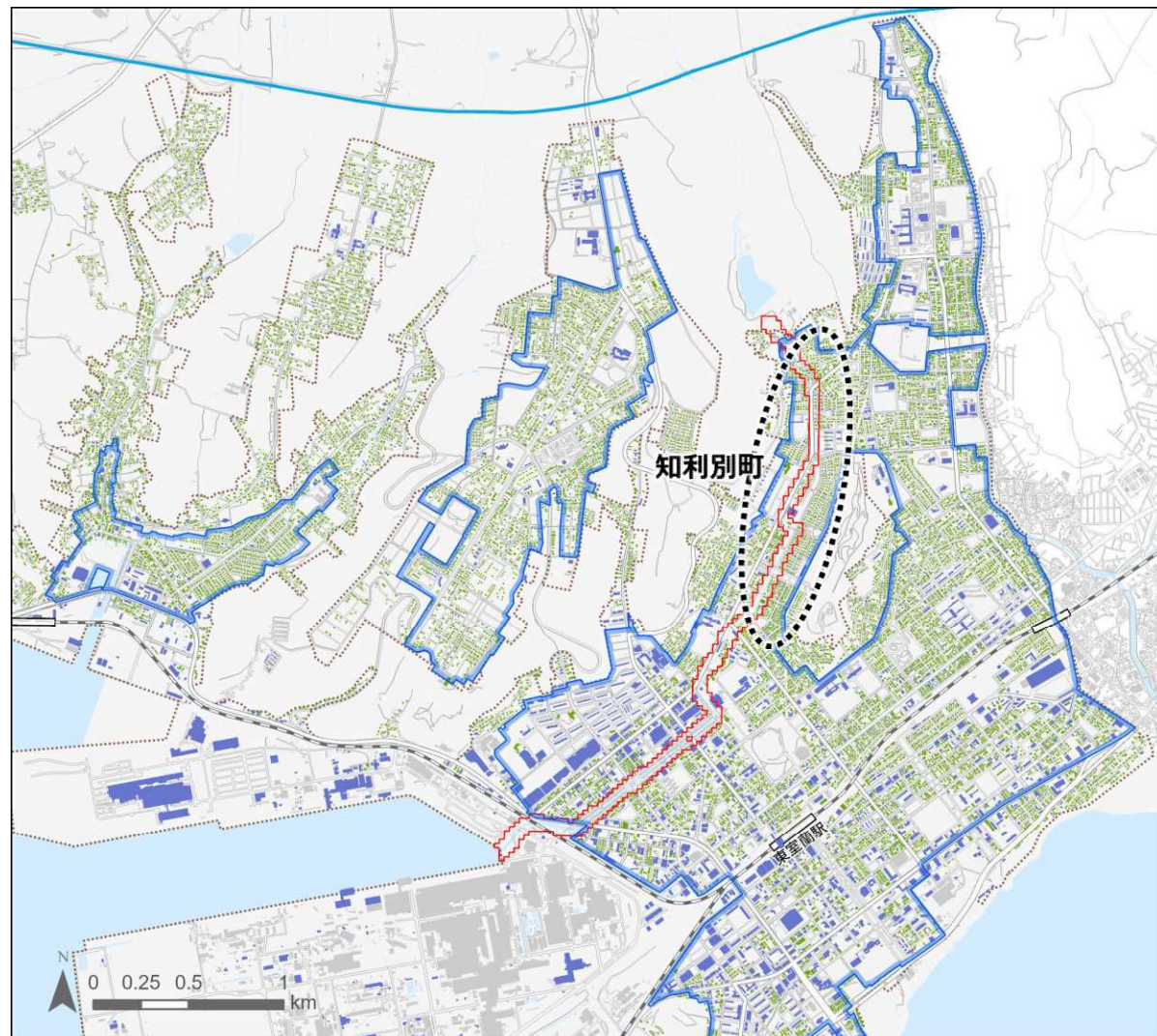


出典：室蘭市オープンデータライブラリ(洪水浸水深さ)を基に作成

### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (8) 家屋倒壊等氾濫想定区域×建物分布・構造 | 家屋倒壊のリスク

- 知利別川の洪水における家屋倒壊等氾濫想定区域が、居住誘導区域内の住宅にかかっており、知利別町の住宅街で顕著である。
- 住宅の多くは木造住宅であり、洪水時には建物への被害が懸念される。



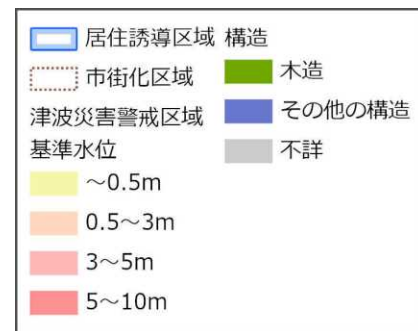
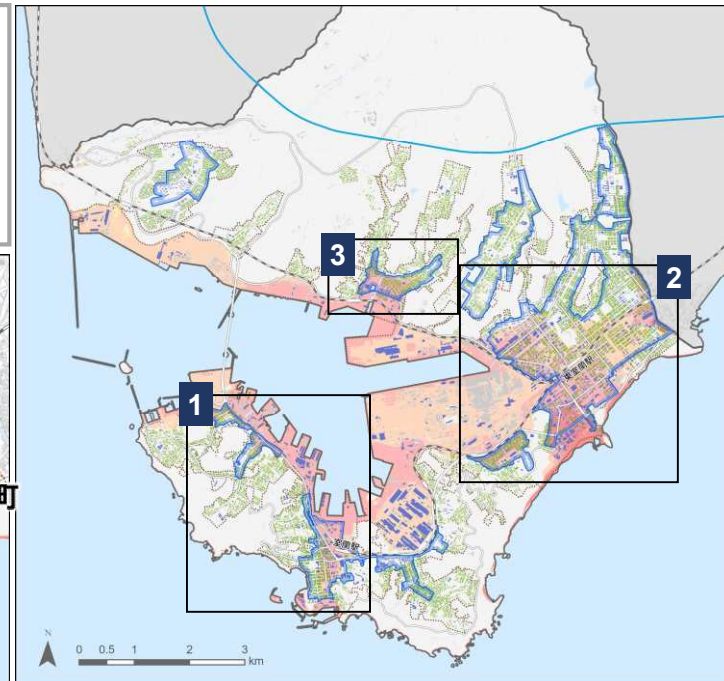
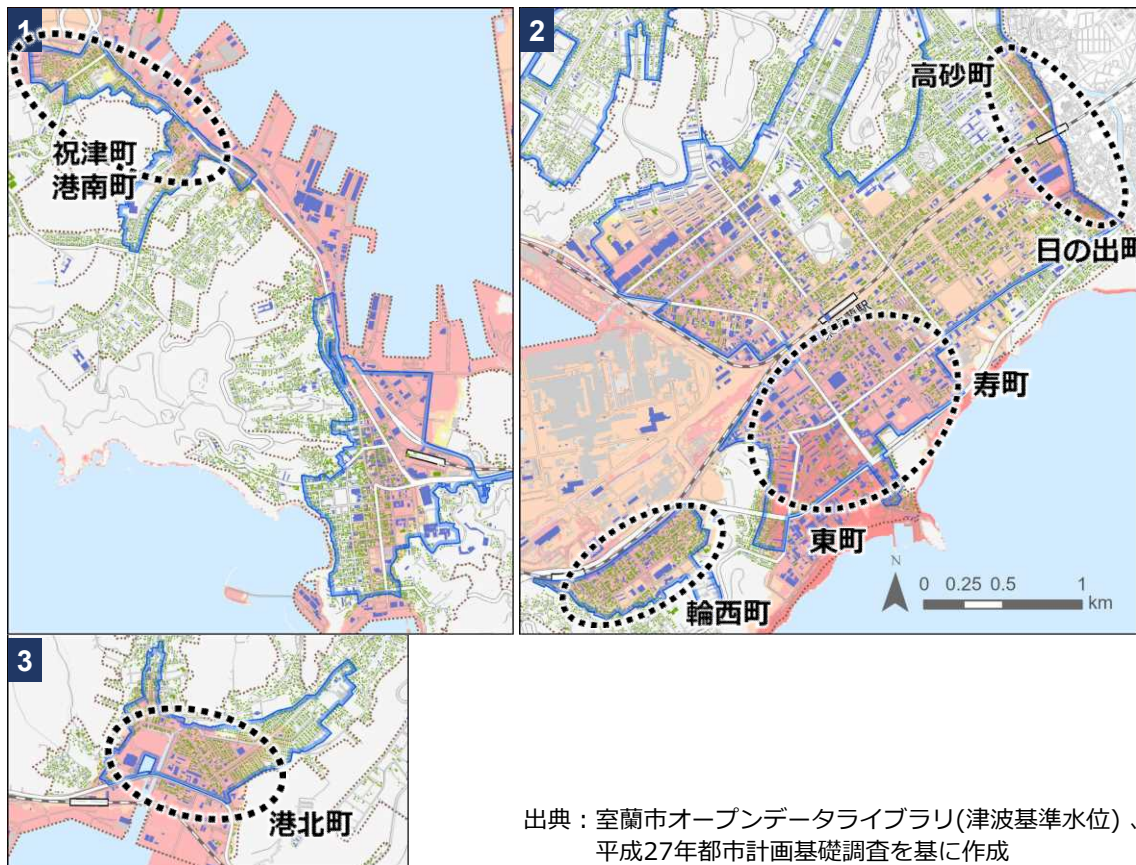
出典：室蘭市所有データ、平成27年都市計画基礎調査を基に作成



### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (9) 津波基準水位×建物構造 | 家屋流失の危険性

- 3mを超える津波では木造家屋が全壊・流失するなどの大きな被害が想定される。
- 祝津町、港南町、輪西町、東町、寿町、日の出町、高砂町、港北町では3m以上の浸水区域の中に、木造建物の分布が目立つ。



出典：室蘭市オープンデータライブラリ(津波基準水位)、平成27年都市計画基礎調査を基に作成

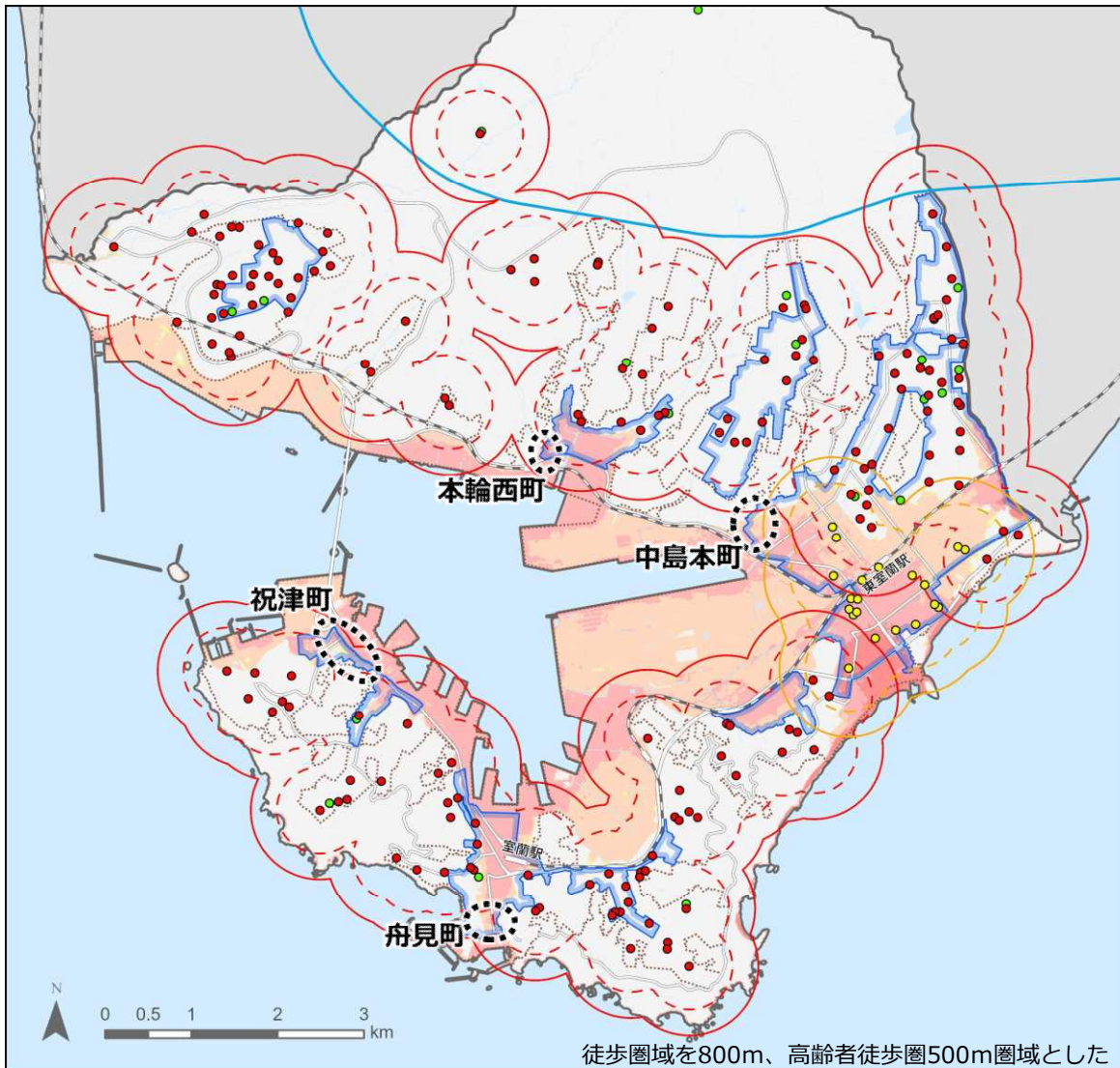
その他の構造は鉄骨造、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造等の耐火・準耐火構造



### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (10) 津波浸水深×避難施設 | 避難施設の活用可否

- 居住誘導区域内の津波浸水区域は、津波災害時、津波災害のおそれがあるときに、一時的に避難する避難場所、および、津波避難ビルの徒歩圏域におおむね含まれる。
- 高齢者徒歩圏域でみると、避難場所・津波避難ビルの徒歩圏域外となるエリアが一部存在する。



出典：室蘭市オープンデータライブラリ(津波基準水位、避難場所)、室蘭市所有データ(避難ビル、指定避難所)を基に作成

### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (11) 津波災害時の避難場所・津波避難ビルまでの移動所要時間 | 避難可能エリア

- 津波避難の際、祝津町、舟見町、中島本町・中島町、本輪西町、港北町の居住誘導区域の一部で津波到達までに避難場所へ到達できない可能性がある。(冬期・夜間ケースの分析結果)

分析に用いたパラメーター

避難可能時間 21分

※市内最短津波到達地点および夜間・冬期での悪条件での設定

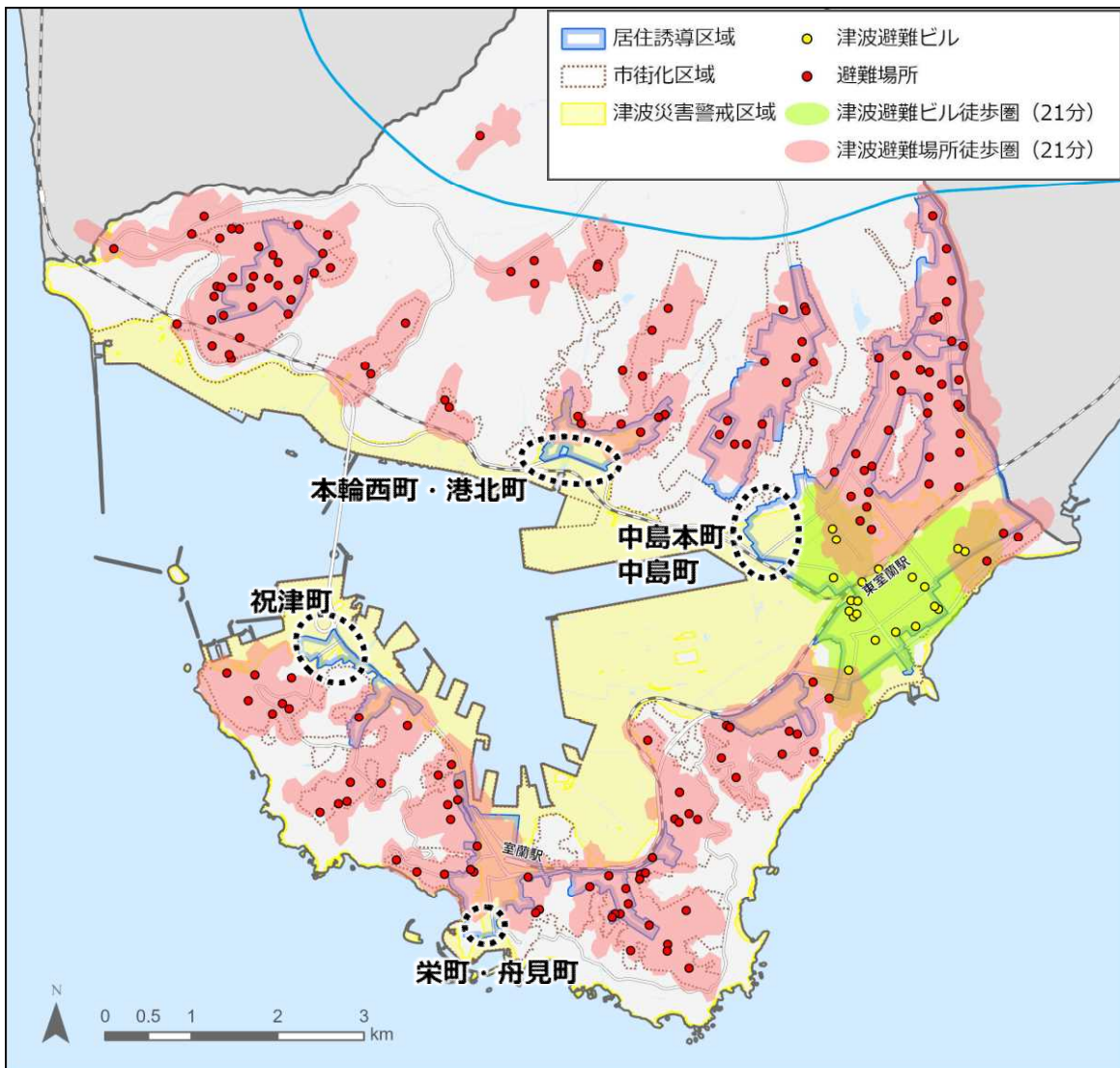
- ・津波到達時間 [陸上への影響が開始する時間]  
(最短である寿町の値) 33分
- ・避難準備時間 (直ちに避難) 12分
  - 身を守る行動 5分
  - 着替え(寝間着) 5分
  - 防寒着着用 2分

(津波到達時間) - (避難準備時間) = 21分

移動速度 0.4m/秒

- ・東日本大震災の実績値 0.62m/秒
- ・夜間の移動低下を考慮 8/10
- ・冬期の移動低下を考慮 8/10

$0.62\text{m/秒} \times 0.8 \times 0.8 = 0.4\text{m/秒}$

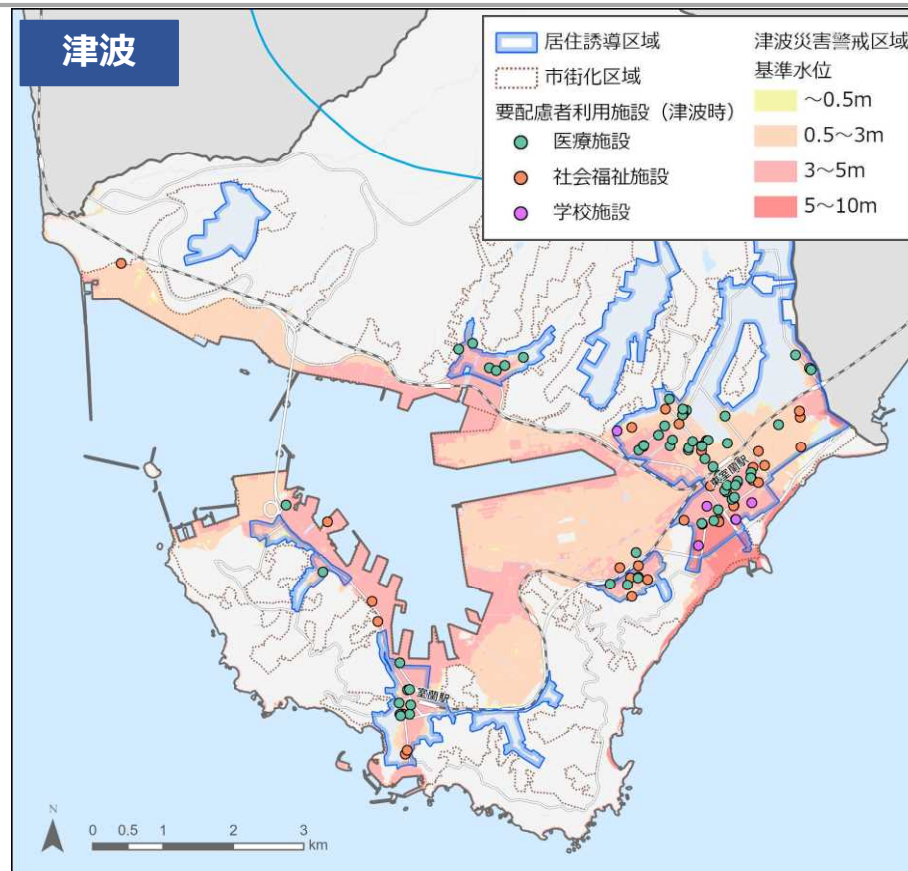


出典：室蘭市オープンデータライブラリ(避難場所)のデータを用い、Esri社 ArcGISで分析

### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (12) 津波浸水深×要配慮者利用施設 | 継続利用可否、避難支援要否

- 東室蘭駅の北側は、津波浸水エリアとなっており、また医療施設の分布も多いため、要配慮者利用施設が集積している。
- これらの施設は、健康や生命維持等に欠かせない医療施設や、日常的な生活を支える施設等を含み、サービスの維持・継続の必要性が高いため、被災後の継続利用についても検討が必要である。



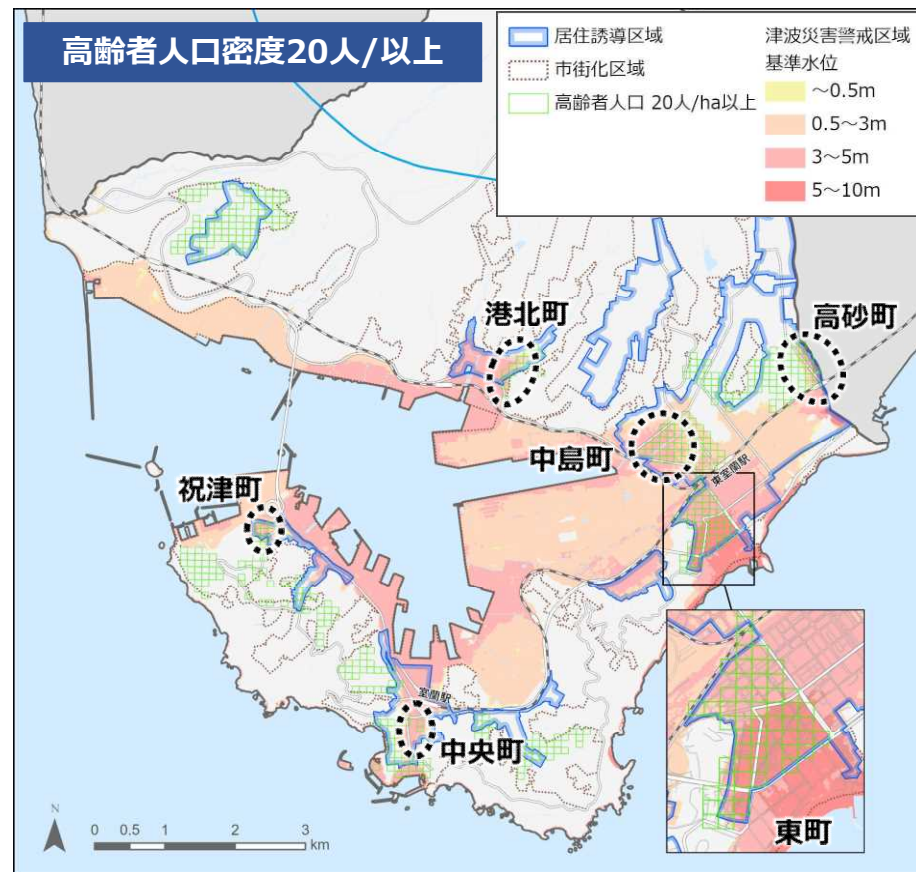
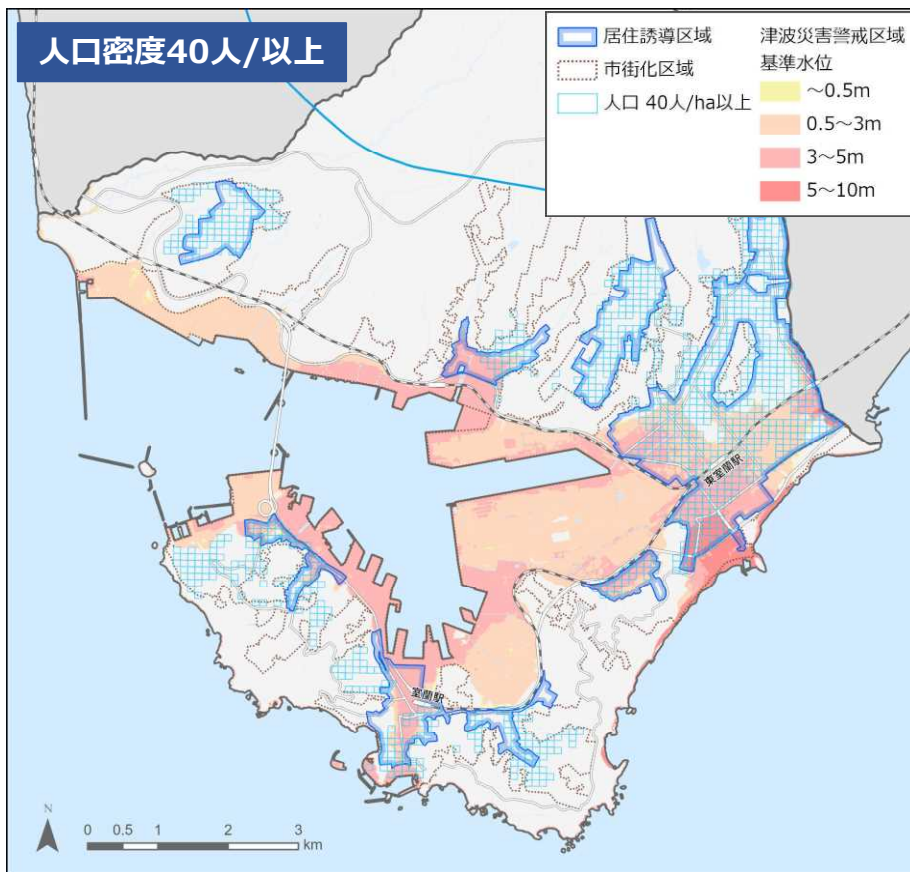
出典：室蘭市オープンデータライブラリ(津波基準水位)、  
室蘭市所有データ(要配慮者利用施設リスト)を基に作成



### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (13) 津波浸水深×人口密度・高齢者人口密度 | 避難支援地域

- 人口の集積地である蘭東地区は、広範囲で津波の被害が想定されている。
- 特に5m以上の津波が想定される東町では、高齢者の人口密度も高く大きな被害が想定される。また、他にも複数の高齢者人口密度の高い地域で3m以上の津波が想定されている。

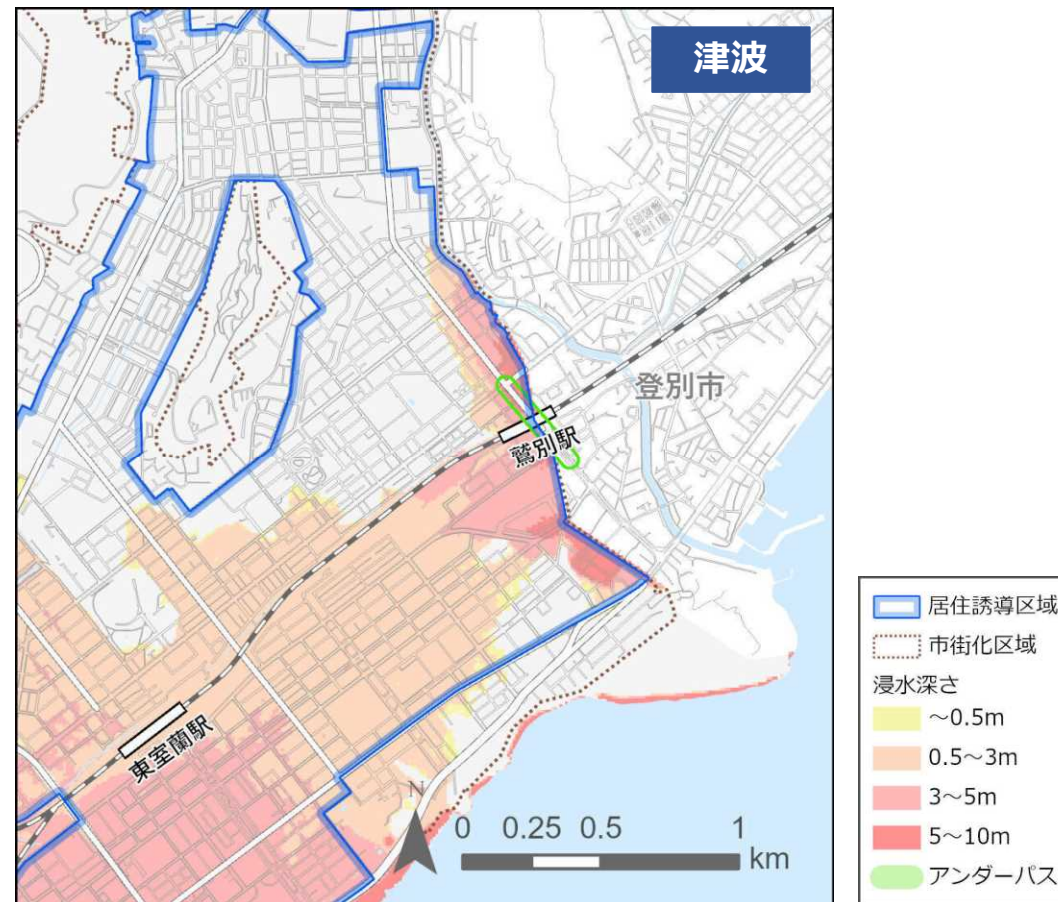


出典：室蘭市オープンデータライブラリ(津波基準水位)、令和2年国勢調査を基に作成

### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (14) 津波基準水位×アンダーパス | 避難路活用、孤立地域有無

- 本市と登別市をまたぐ道道107号室蘭環状線に鷺別アンダーパスがあり、津波災害発生時には避難路としての利用が困難となることが想定される。

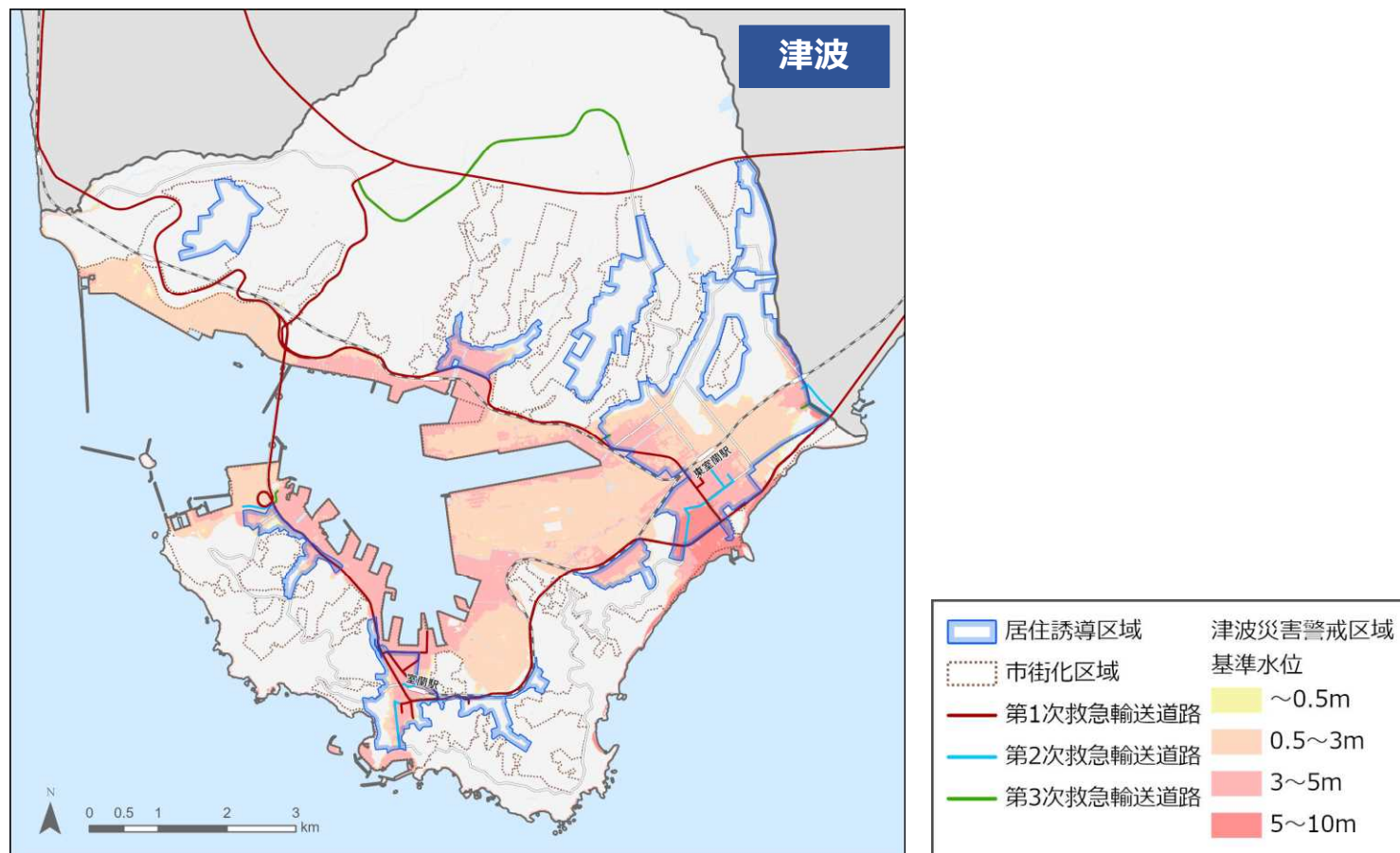


出典：室蘭市オープンデータライブラリ(津波基準水位)を基に作成

### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (15) 津波基準水位×緊急輸送道路 | 避難・救援経路の確保

- 海岸に近い第1次緊急輸送道路は、多くの区間が津波浸水想定区域に含まれる。被災直後は、避難経路や救援経路として広域幹線軸及び地域間幹線軸を含む緊急輸送道路が使用できない可能性がある。



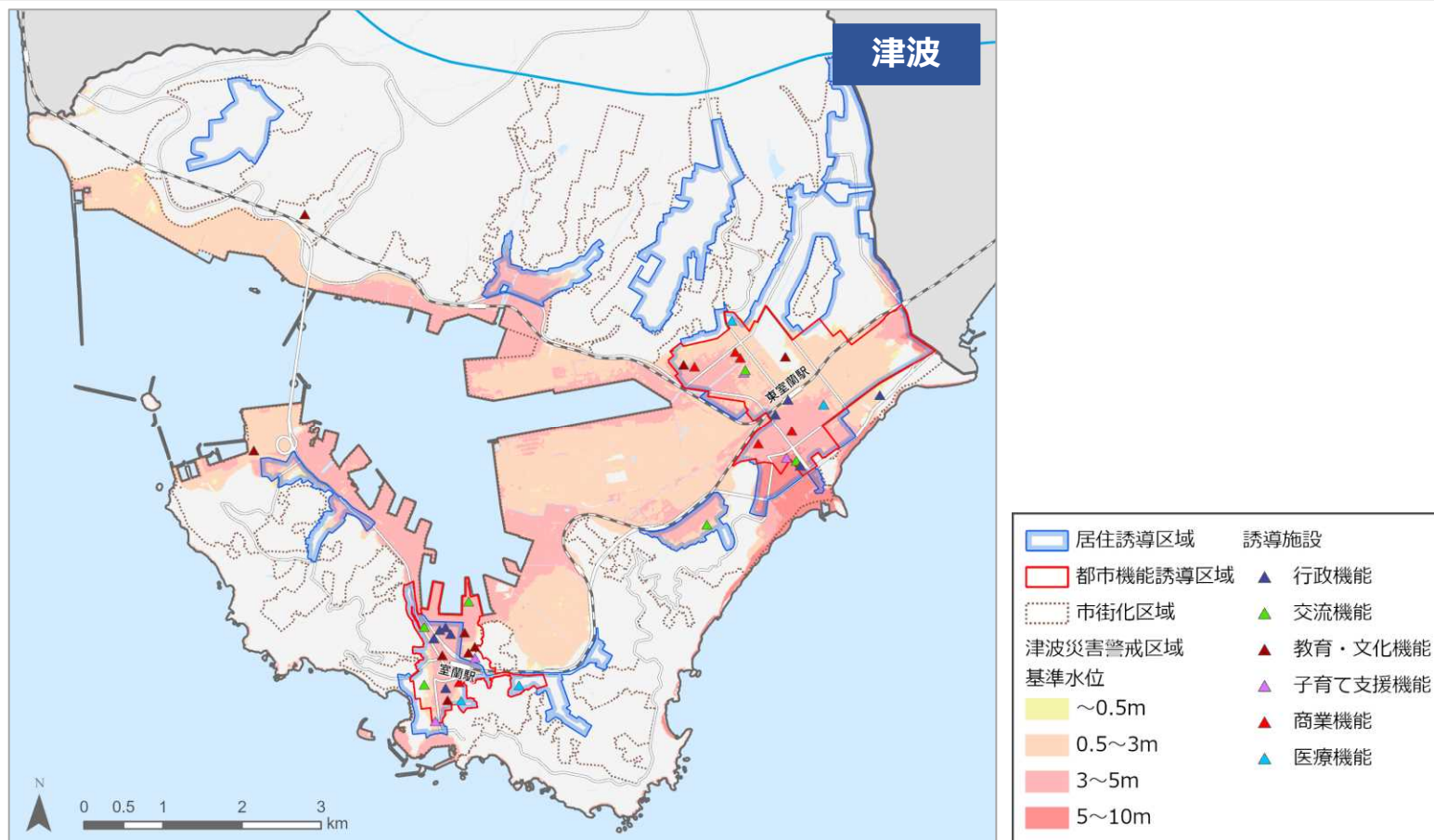
出典：室蘭市オープンデータライブラリ(津波基準水位)を基に作成



### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (16) 津波基準水位×誘導施設 | 従業員等の安全、都市機能の継続性の確保

- 東室蘭駅南側の東町や寿町の周辺では、浸水深さが3mを超えるエリアに誘導施設となる行政施設や商業施設が複数立地しているほか、交流機能および子育て支援機能も立地している。
- また、室蘭駅周辺は浸水深さが3mを超えるエリアに国・北海道・室蘭市の行政施設が立地している。



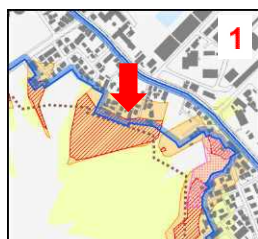
出典：室蘭市オープンデータライブラリ(津波基準水位)を基に作成

### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (17) 土砂災害によるハザード区域×建物分布 | 家屋倒壊のリスク

- 土砂災害特別警戒区域や急傾斜地崩壊危険区域が居住誘導区域内に含まれる箇所が複数あり、人および家屋への被害が想定される。
- 急傾斜地崩壊危険区域は対策が進められている。

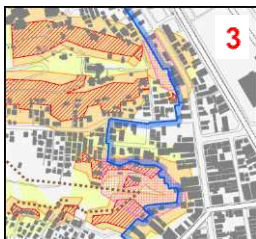
#### 居住誘導区域内に土砂災害特別警戒区域および急傾斜地崩壊危険区域を含む地域の確認



土砂災害特別警戒区域  
および急傾斜地崩壊危険区域（対策済）を含む



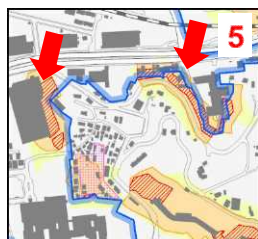
急傾斜地崩壊危険区域  
（対策済）を含む



急傾斜地崩壊危険区域  
（対策済）を含む



急傾斜地崩壊危険区域  
（対策済）を含む



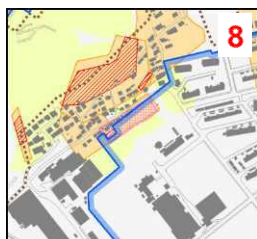
土砂災害特別警戒区域  
および急傾斜地崩壊危険区域（対策済）を含む



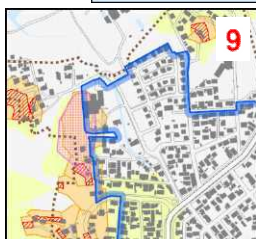
土砂災害特別警戒区域  
および急傾斜地崩壊危険区域（対策済）を含む



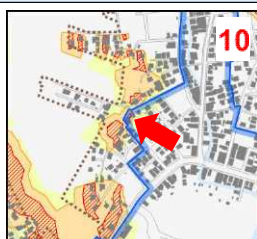
急傾斜地崩壊危険区域  
（対策済）を含む



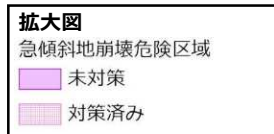
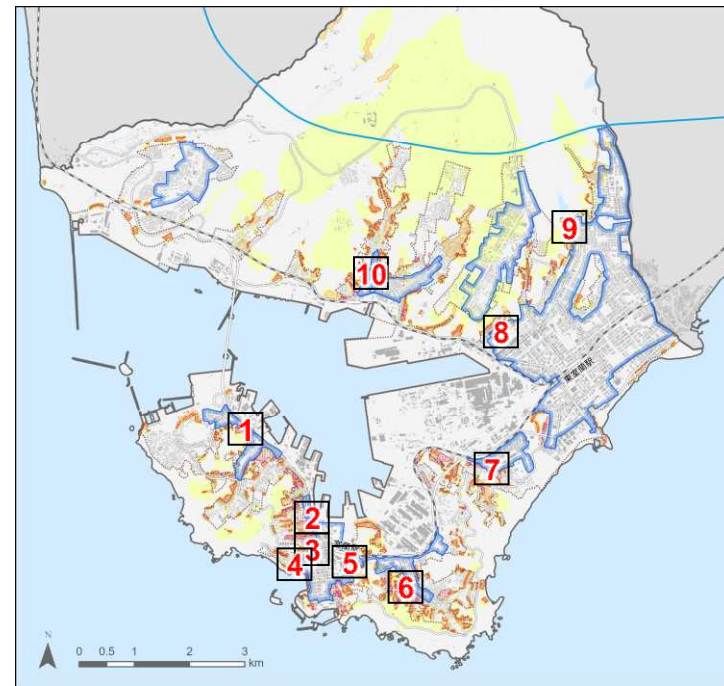
急傾斜地崩壊危険区域  
（対策済）を含む



急傾斜地崩壊危険区域  
（対策済）を含む



土砂災害特別警戒区域  
を含む



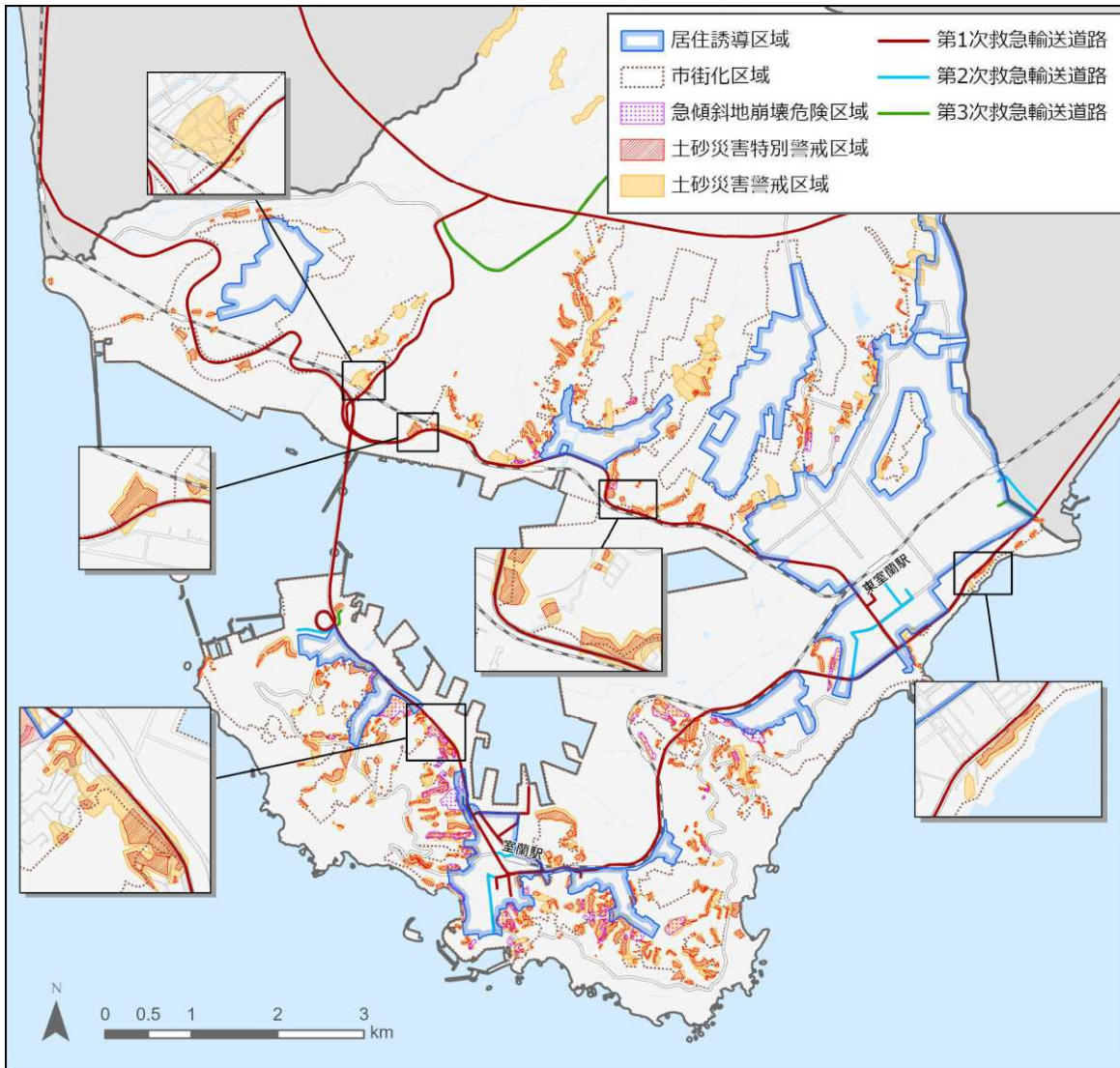
出典：室蘭市オープンデータ(土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域)、室蘭市所有データ(急傾斜地崩壊危険区域)、平成27年都市計画基礎調査を基に作成



### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (18) 土砂災害によるハザード区域×緊急輸送道路 | 孤立リスク

- 市内の緊急輸送道路は土砂災害警戒区域に含まれる区間が複数あるが、白鳥大橋により環状にネットワークが形成されているため、広域幹線軸または拠点間幹線軸が完全に遮断され、完全な分断地域は生じないと想定される。
- また、市道等の土砂災害においても居住誘導区域外は完全な分断は生じないと想定される。



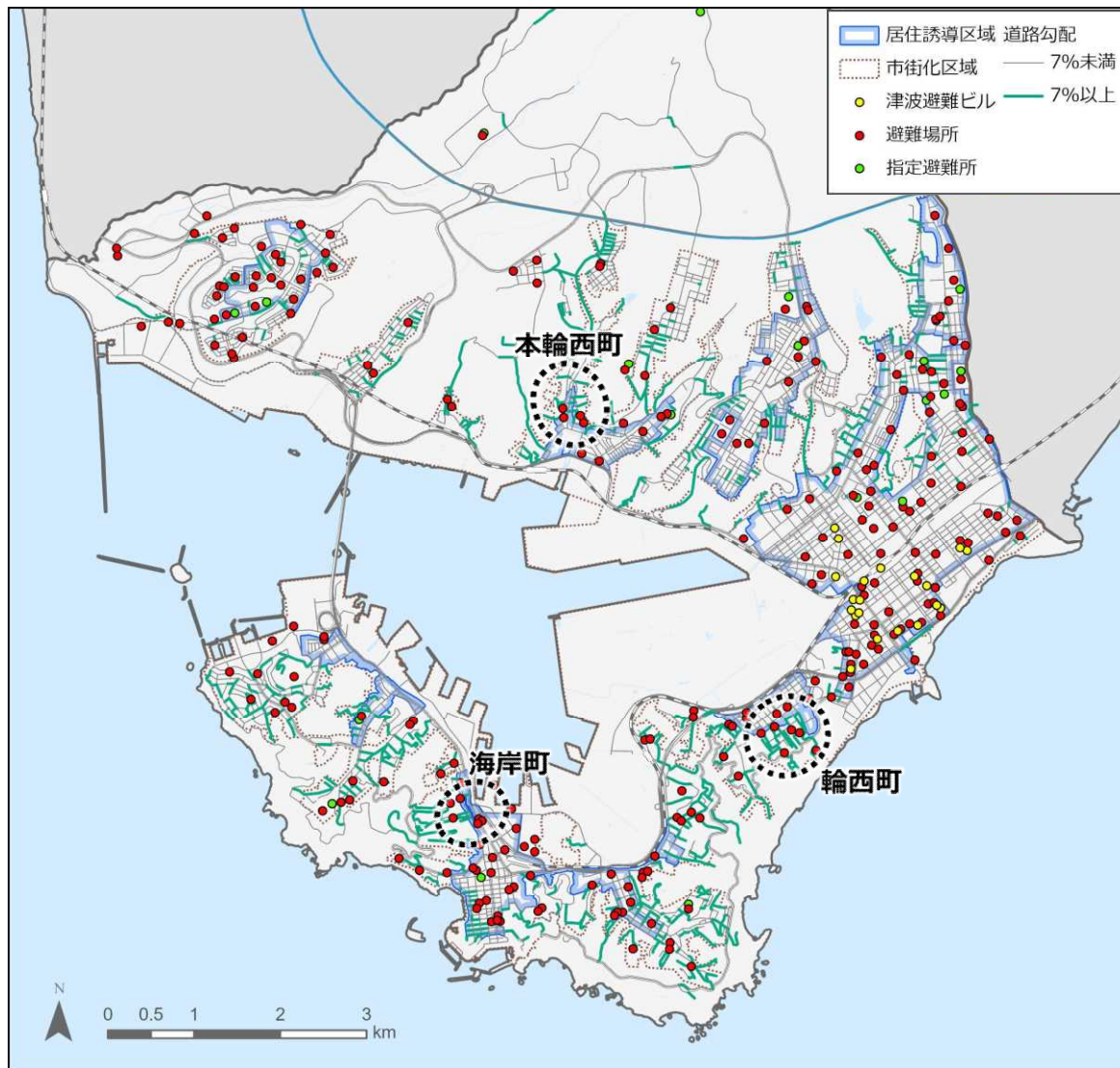
出典：室蘭市オープンデータ(土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域)、室蘭市所有データ(急傾斜地崩壊危険区域)、国土数値情報(緊急輸送道路)を基に作成

### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (19) 道路勾配×避難施設（避難施設までの急勾配箇所への把握） | 冬期避難の困難エリア（特に高齢者徒歩）

- 本市の道路は内陸部に向かって上り坂となっている箇所が多く、特に急勾配の道路については、徒歩による避難行動を阻害するおそれがある。

※バリアフリー法 建築物移動等円滑化誘導基準におけるスロープ勾配（屋外）6.67%以下を基に、7%を基準とした  
※勾配は道路リンク両端の標高と道路延長から算出した値であり、実際の道路勾配を表したものではない



出典：デジタル道路地図 全道路リンク、基盤地図情報 数値標高モデルを基に作成

### 3. 災害による危険性の高い地域の分析

#### (20) 指定避難所とその圏域避難人口 | 避難所収容人数の過不足

- 津波災害では、蘭北地区以外で、避難所を要する人数が、市内の避難所収容人数を上回る可能性がある。
- 市内の避難所の確保の他、一時避難場所等の活用を検討したり、避難者の受け入れに関し他の市町村との連携を図る必要がある。

地区	指定避難所	収容人数（人）
蘭西地区	みなと小学校	1,924
	室蘭清水丘高等学校体育館	340
	室ガス文化センター	216
	子ども発達支援センター（あいくる）	86
	計	2,566
蘭東地区	旭ヶ丘小学校	1,082
	室蘭工業高等学校体育館	246
	海星学院高等学校体育館	200
	市立室蘭看護専門学院	200
	東明中学校	1,071
	室蘭東翔高等学校体育館	226
	天神小学校体育館	233
	室蘭工業大学体育館	493
	北海道大谷室蘭高等学校体育館	460
	八丁平小学校	916
	計	5,219

地区	指定避難所	収容人数（人）
蘭北地区	蘭北小学校	960
	港北中学校	993
	サンパワー宿泊研修所	152
	白蘭小学校	938
	本室蘭中学校	1,216
	喜門岱小学校体育館	237
	計	4,496

地区	収容人数（人）	避難人口（人）		
		洪水災害	津波災害	土砂災害
蘭西地区	2,566	0	3,931	2,985
蘭東地区	5,219	9,680	18,334	2,152
蘭北地区	4,496	1,300	1,758	1,524

※指定避難所は洪水災害、津波災害、土砂災害いずれも使用可能である

※避難人口は以下とした

洪水災害：洪水浸水想定区域内の人口

津波災害：津波災害警戒区域内の人口

土砂災害：土砂災害警戒区域・特別警戒区域・急傾斜地崩壊危険区域内の人口

（これらすべてが避難所を要するとは限らない）

# 目次

- 0. はじめに
- 1. 立地適正化計画 防災指針の役割
- 2. ハザード情報の整理
- 3. 災害による危険性の高い地域の分析
- 4. 災害別の課題**
- 5. 取り組み方針（案）
- 6. 地域別の取組（案）
- 7. 防災まちづくりの目標値（案）

## 4. 災害別の課題

### (1) 洪水災害

	災害分析結果	課題	地域
洪水災害	浸水深0.5m以上となり、避難が必要な地域がある。 <b>居住</b>	治水対策とともに、速やかな避難行動をとれるよう住民の防災意識を向上させる必要がある。	中島町、中島本町、知利別町、港北町、水元町、高砂町、日の出町
	浸水区域内は高齢者人口密度が高く、中島町については要配慮者利用施設の立地が多い。 <b>都市機能</b>	高齢者の避難や要配慮者利用施設における避難を速やかに行うための体制を整える必要がある。	中島町・高砂町・知利別町
	家屋倒壊等氾濫想定区域内に多数の木造家屋が含まれ、家屋への損害が想定される。 <b>居住</b>	徹底した区域の周知と防災意識の向上が必要である。	知利別町
	都市機能誘導区域内の浸水深さ0.5mを超える区域には、商業施設や金融施設の立地が多い。 <b>都市機能</b>	従業員の安全確保と被災後の迅速な営業再開に向けた準備が必要である。	中島町



## 4. 災害別の課題

### (2) 津波災害

	災害分析結果	課題	地域
津波災害	浸水想定区域に広域幹線軸や拠点間幹線軸を含む第1次緊急輸送道路が多く含まれている。 <b>都市機能</b> <b>居住</b>	都市機能誘導・居住誘導区域を結ぶ広域幹線軸や拠点間幹線軸は、迅速な避難・救援のため早期の道路啓開が必要である。	地域共通
	広範囲で津波警戒区域に指定されており、要配慮者利用施設も存在する。 <b>都市機能</b>	住民の防災意識を高め、災害に備える必要がある。建物の強靱化に努める必要がある。要配慮者利用施設の避難確保計画等の着実な作成・運用が必要である。	地域共通
	蘭西や蘭東地区では、災害時に避難所の収容人数が不足する可能性がある。 <b>居住</b>	広域連携による災害対応が必要である。	地域共通
	津波浸水深さ5.0m以上と市内でも特に高く、甚大な被害が想定される。また、高齢者人口密度も高く、木造建物が多い地域である。 <b>居住</b>	大人数が迅速に避難可能な体制の構築が必要である。	東町
	3m以上の大規模な津波が想定される地域、かつ木造住宅が多く立地している。 <b>居住</b>	自宅での垂直避難が難しく、安全な避難施設への誘導が必要である。	寿町・日の出町
	3m以上の大規模な津波が想定される地域の中でも高齢者人口密度の高い地域である。また、祝津町では避難場所の高齢者徒歩圏域から一部が外れる。 <b>居住</b>	高齢者の避難を速やかに行うための体制を整える必要がある。	祝津町・中央町・中島町・高砂町・港北町

## 4. 災害別の課題

### (3)津波災害・土砂災害

	災害分析結果	課題	地域
津波災害	一部の地域で避難場所の徒歩圏域から外れる。 <b>居住</b>	浸水想定区域外への迅速な避難など適切な避難行動がとれるよう、当該地域の住民の防災意識を向上する必要がある。	中島本町
	内陸部に避難する際の道路勾配が大きい。 <b>居住</b>	迅速な避難のため、高齢者等の避難支援が必要である。	海岸町、輪西町、本輪西町
	浸水深さ3.0mを超えるエリアに誘導施設となる行政施設や介護福祉施設、商業施設、金融施設、医療施設等が多く立地する。 <b>都市機能</b>	様々な施設利用者の避難支援が必要である。施設誘導の際には防災面での配慮が必要である。	東町、寿町
	誘導施設となる国・北海道・室蘭市の行政施設の浸水深さが3.0mを超える。 <b>都市機能</b>	災害発生時に迅速に業務を再開できるように準備が必要である。市役所移転を検討する際には防災面での配慮が必要である。	幸町、海岸町、入江町
土砂災害	土砂災害特別警戒区域および未対策の急傾斜地崩壊危険区域が居住誘導区域内に存在する。 <b>居住</b>	現計画策定後に判明した新たな危険箇所については居住誘導区域からの除外が必要である。	蘭西地区・本輪西町
	土砂災害警戒区域が居住誘導区域内に存在する。 <b>居住</b>	住民の防災意識を向上する必要がある。	蘭西地区・輪西町・東町・中島本町・知利別町・天神町・水元町・港北町・本輪西町

# 目次

0. はじめに

1. 立地適正化計画 防災指針の役割

2. ハザード情報の整理

3. 災害による危険性の高い地域の分析

4. 災害別の課題

**5. 取り組み方針（案）**

6. 地域別の取組（案）

7. 防災まちづくりの目標値（案）



## 5. 取組方針（案）

- 防災指針の基本的な考え方、ハザード情報の整理結果、災害リスク分析の結果を踏まえ、居住誘導区域および都市機能誘導区域における取組方針を以下のとおり設定する。

### 防災指針の基本的な考え方：

室蘭市における防災指針は、まちなかの災害リスクの理解を通じた住民の防災意識の向上、および市の防災分野の取組みをまちづくりの観点で整理しなおすことを目的とします。

#### 取組方針 1：利便性と安全性を両立するまちなかを創出

都市機能の誘導により利便性の高い居住環境を整備するとともに、施設の利用者や従業員の安全性確保、業務継続性の強化など利便性と安全性の両立に取り組みます。

#### 取組方針 2：居住地域の特性に応じた市民一人一人の防災力の強化

災害から身を守るためには、災害や防災に関する正しい知識を持ち、自らが考えて迅速に行動することが重要です。市民が災害や防災に対して考える機会を創出し、地域防災力の強化に取り組みます。

#### 取組方針 3：人命を守るための地域特性に応じた避難体制の確保

本市では防災・減災対策を進めていますが、激甚化する災害の全てを完全に防ぐことはできません。津波などの大規模災害時には人命の確保を第一優先として、迅速に避難できる体制の確保に取り組みます。

#### 取組方針 4：国や北海道と連携したまちなかの防災・減災対策の推進

洪水災害、津波災害、土砂災害に対応したハード施設の整備は、国や北海道と協力して引き続き対策の推進を図ります。また、今後更なる整備の必要性についても検討します。

# 目次

0. はじめに
1. 立地適正化計画 防災指針の役割
2. ハザード情報の整理
3. 災害による危険性の高い地域の分析
4. 災害別の課題
5. 取り組み方針（案）
- 6. 地域別の取組（案）**
7. 防災まちづくりの目標値（案）

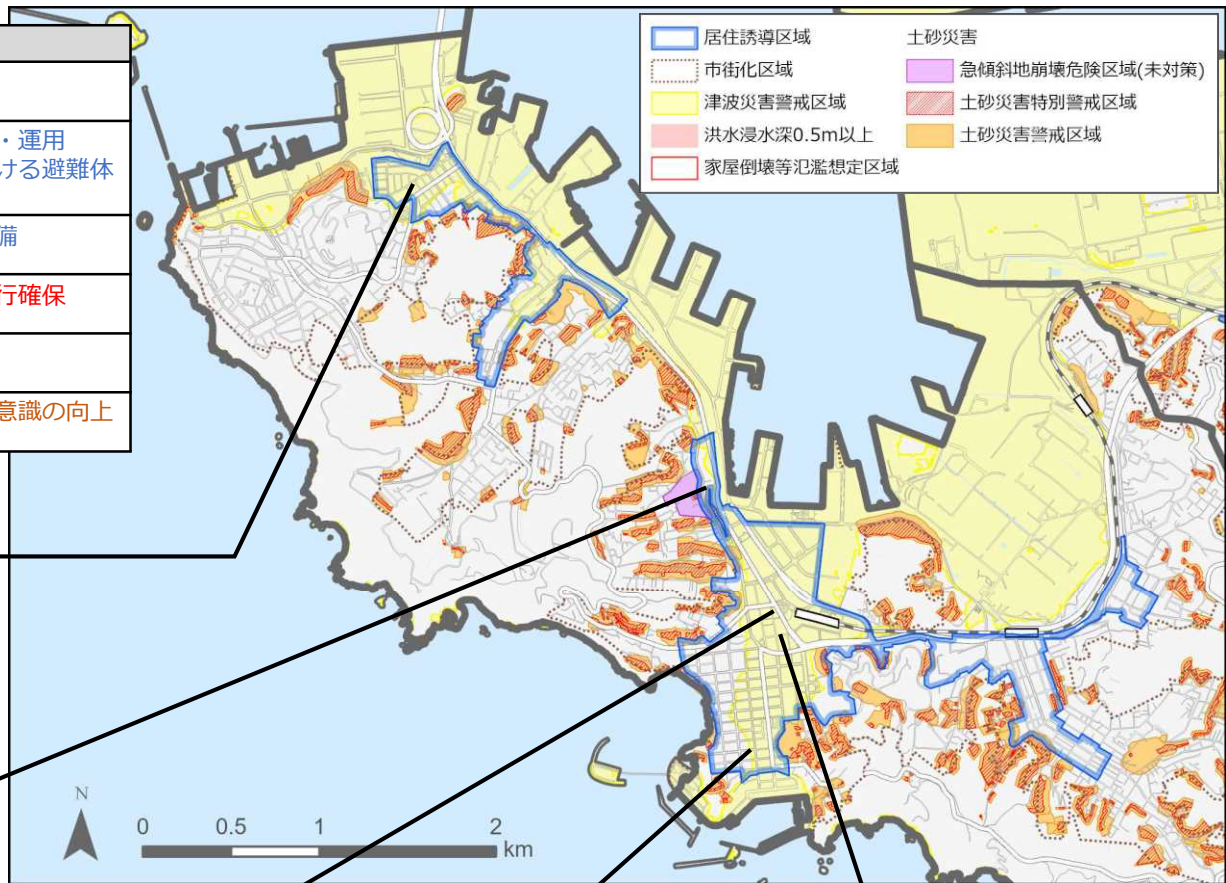
# 6. 地域別の取組（案）

取組方針
1：利便性と安全性を両立するまちなかを創出
2：居住地域の特性に応じた市民一人一人の防災力の強化
3：人命を守るための地域特性に応じた避難体制の確保
4：国や北海道と連携したまちなかの防災・減災対策の推進

## (1) 地域別の取組【蘭西】

### 蘭西地域区全体

災害	分析結果	取組（案）
津波	広い範囲で津波警戒区域に指定	・防災教育の推進
	要配慮者利用施設が存在	・避難確保計画等の作成・運用 ・要配慮者利用施設における避難体制の確保
	避難所の収容人数が不足する可能性	・避難場所等の指定・整備
土砂	第1次緊急輸送道路が浸水想定区域に存在	・緊急輸送道路の早期通行確保
	居住誘導区域にレッドゾーンが存在	・居住誘導区域の見直し
	居住誘導区域に土砂災害警戒区域が存在	・町内会単位等での防災意識の向上



### 祝津町

災害	分析結果	取組（案）
津波	津波浸水深さ3m以上	・建築物等の強化対策
	高齢者人口密度が高い	・町内会単位等での防災意識の向上
	一部が津波時避難場所から徒歩圏外	・避難場所等の指定・整備

### 海岸町

災害	分析結果	取組（案）
津波	避難の際の道路勾配が大きい	・避難行動要支援者の避難体制の確保
	浸水深さ3m以上に行政施設が立地	・誘導施設における防災体制・設備の整備 ・災害発生後の業務継続体制の構築

### 幸町・入江町

災害	分析結果	取組（案）
津波	浸水深さ3m以上に行政施設が立地	・誘導施設における防災体制・設備の整備 ・災害発生後の業務継続体制の構築

### 栄町・舟見町



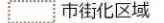

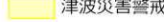

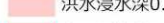

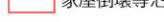
災害	分析結果	取組（案）
津波	一部が津波時避難場所から徒歩圏外	・避難場所等の指定・整備

### 中央町

災害	分析結果	取組（案）
津波	津波浸水深さ3m以上	・建築物等の強化対策
	高齢者人口密度が高い	・町内会単位等での防災意識の向上

# 6. 地域別の取組（案）

取組方針	
1	：利便性と安全性を両立するまちなかを創出
2	：居住地域の特性に応じた市民一人一人の防災力の強化
3	：人命を守るための地域特性に応じた避難体制の確保
4	：国や北海道と連携したまちなかの防災・減災対策の推進

	居住誘導区域		土砂災害
	市街化区域		急傾斜地崩壊危険区域(未対策)
	津波災害警戒区域		土砂災害特別警戒区域
	洪水浸水深0.5m以上		土砂災害警戒区域
	家屋倒壊等氾濫想定区域		

## (2) 地域別の取組【蘭東】その1

### 天神町

災害	分析結果	取組（案）
土砂	居住誘導区域に土砂災害警戒区域が存在	・町内会単位等での防災意識の向上

### 知利別町

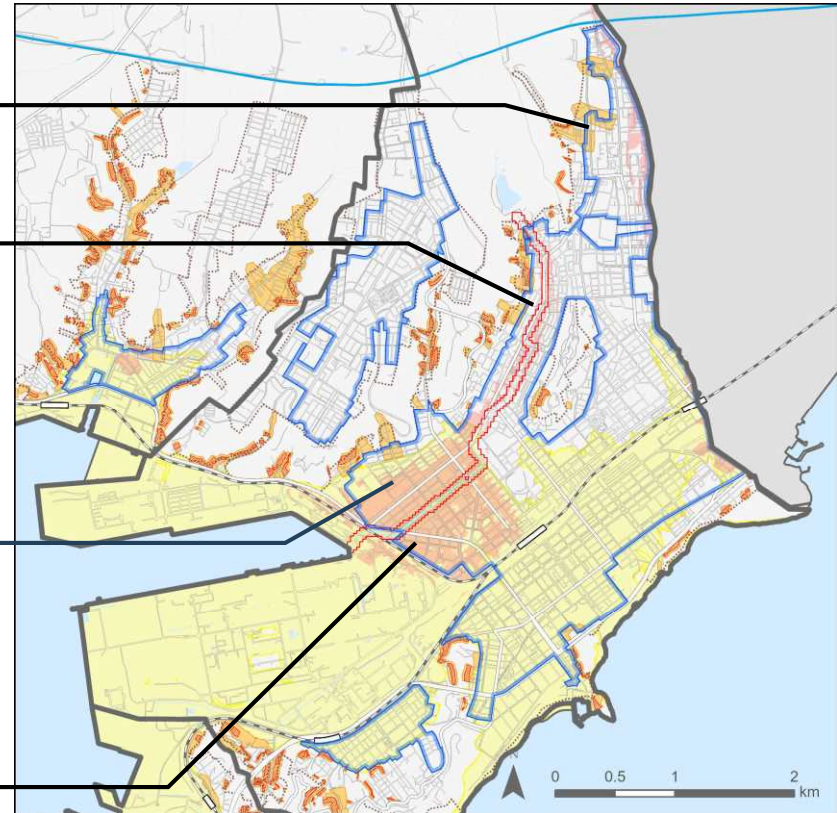
災害	分析結果	取組（案）
洪水	洪水浸水深さ0.5m以上	・町内会単位等での防災意識の向上 ・道と連携した治水対策の実施
	高齢者人口密度が高い	・町内会単位等での防災意識の向上
	家屋倒壊等氾濫想定区域に木造家屋が多数分布	・危険区域（災害リスク）の周知・徹底 ・防災教育の推進
土砂	居住誘導区域に土砂災害警戒区域が存在	・町内会単位等での防災意識の向上

### 中島本町

災害	分析結果	取組（案）
洪水	洪水浸水深さ0.5m以上	・町内会単位等での防災意識の向上 ・道と連携した治水対策の実施
津波	一部が津波時避難場所から徒歩圏外	・避難場所等の指定・整備
土砂	居住誘導区域に土砂災害警戒区域が存在	・町内会単位等での防災意識の向上

### 中島町

災害	分析結果	取組（案）
洪水	洪水浸水深さ0.5m以上	・町内会単位等での防災意識の向上 ・道と連携した治水対策の実施
	洪水時要配慮者利用施設が集積	・避難確保計画等の作成・運用 ・要配慮者利用施設における避難体制の確保
	商業・金融施設が洪水浸水想定区域に集積	・災害発生後の業務継続体制の構築 ・都市機能施設における避難体制の確保
	高齢者人口密度が高い	・町内会単位等での防災意識の向上
津波	津波浸水深さ3m以上	・建築物等の強靱化対策
	一部が津波時避難場所から徒歩圏外	・避難場所等の指定・整備
	高齢者人口密度が高い	・町内会単位等での防災意識の向上



### 蘭東地域全体

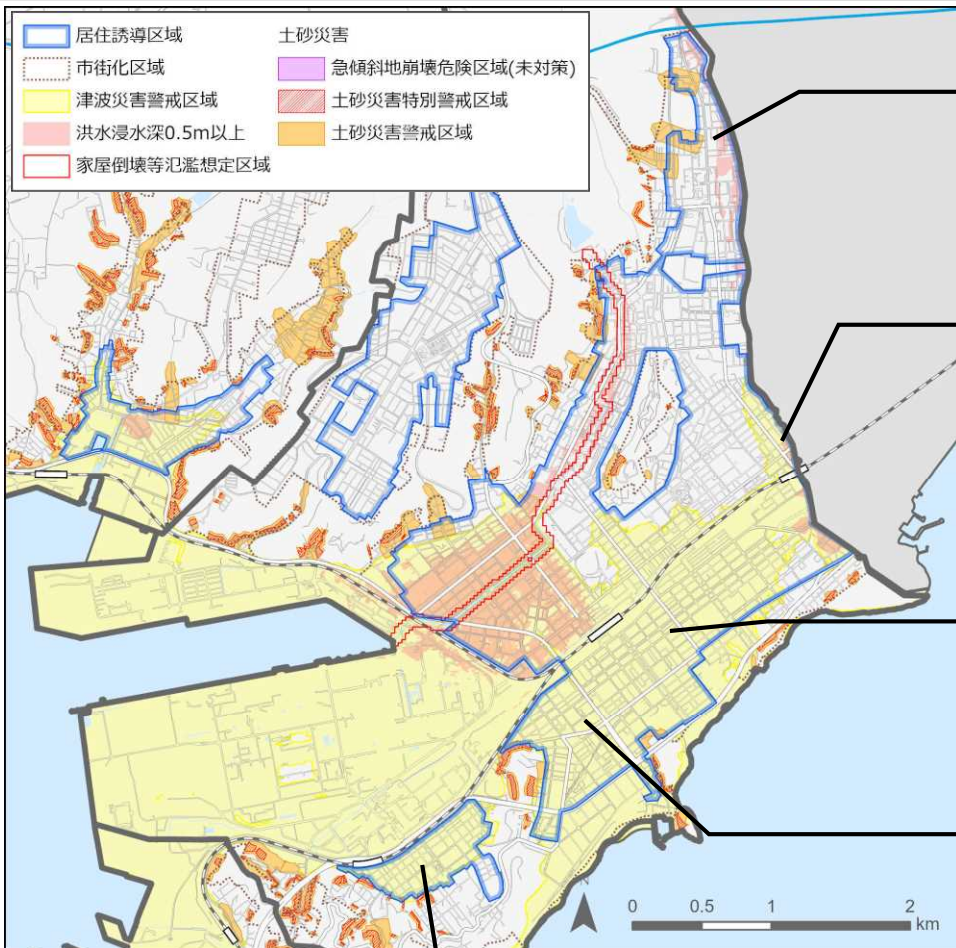
災害	分析結果	取組（案）
津波	広い範囲で津波警戒区域に指定	・防災教育の推進
	要配慮者利用施設が存在	・避難確保計画等の作成・運用 ・要配慮者利用施設における避難体制の確保
	避難所の収容人数が不足する可能性	・避難場所等の指定・整備
	第1次緊急輸送道路が浸水想定区域に存在	・緊急輸送道路の早期通行確保



# 6. 地域別の取組（案）

取組方針
1：利便性と安全性を両立するまちなかを創出
2：居住地域の特性に応じた市民一人一人の防災力の強化
3：人命を守るための地域特性に応じた避難体制の確保
4：国や北海道と連携したまちなかの防災・減災対策の推進

## (2) 地域別の取組【蘭東】その2



### 水元町

災害	分析結果	取組（案）
洪水	洪水浸水深さ0.5m以上	・町内会単位等での防災意識の向上 ・道と連携した治水対策の実施
土砂	居住誘導区域に土砂災害警戒区域が存在	・町内会単位等での防災意識の向上

### 高砂町

災害	分析結果	取組（案）
洪水	洪水浸水深さ0.5m以上	・町内会単位等での防災意識の向上 ・道と連携した治水対策の実施
	高齢者人口密度が高い	・町内会単位等での防災意識の向上
津波	津波浸水深さ3m以上	・建築物等の強靱化対策
	高齢者人口密度が高い	・町内会単位等での防災意識の向上

### 寿町・日の出町

災害	分析結果	取組（案）
津波	津波浸水深さ3m以上	・建築物等の強靱化対策
	木造建物が多く分布	・町内会単位等での防災意識の向上
	浸水深さ3m以上に誘導施設が多数立地	・都市機能施設における避難体制の確保

### 東町

災害	分析結果	取組（案）
津波	津波浸水深さ5m以上となり、安全な場所へ迅速な避難が必要	・防災教育の推進
	浸水深さ3m以上に誘導施設が多数立地	・都市機能施設における避難体制の確保
	高齢者人口密度が高い	・町内会単位等での防災意識の向上
土砂	居住誘導区域に土砂災害警戒区域が存在	・町内会単位等での防災意識の向上
	高齢者人口密度が高い	・町内会単位等での防災意識の向上

### 輪西町

災害	分析結果	取組（案）
津波	津波避難時の道路勾配が大きい	・避難行動要支援者の避難体制の確保
土砂	居住誘導区域に土砂災害警戒区域が存在	・町内会単位等での防災意識の向上

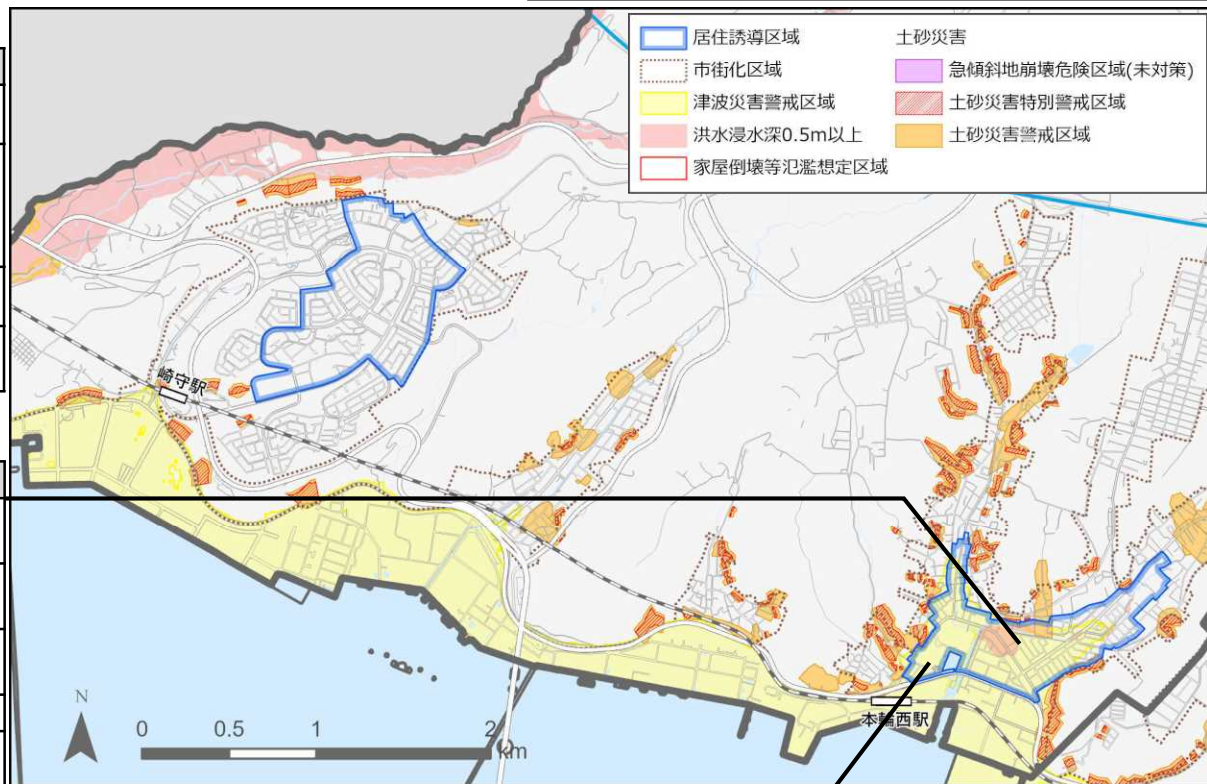
# 6. 地域別の取組（案）

取組方針
1：利便性と安全性を両立するまちなかを創出
2：居住地域の特性に応じた市民一人一人の防災力の強化
3：人命を守るための地域特性に応じた避難体制の確保
4：国や北海道と連携したまちなかの防災・減災対策の推進

## (3) 地域別の取組【蘭北】

### 蘭北地域全体

災害	分析結果	取組（案）
津波	広い範囲で津波警戒区域に指定	・ 防災教育の推進
	要配慮者利用施設が存在	・ 避難確保計画等の作成・運用 ・ 要配慮者利用施設における避難体制の確保
	避難所の収容人数が不足する可能性	・ 避難場所等の指定・整備
	第1次緊急輸送道路が浸水想定区域に存在	・ 緊急輸送道路の早期通行確保



### 港北町

災害	分析結果	取組（案）
洪水	洪水浸水深さ0.5m以上	・ 町内会単位等での防災意識の向上 ・ 道と連携した治水対策の実施
	高齢者人口密度が高い	・ 町内会単位等での防災意識の向上
津波	津波浸水深さ3m以上	・ 建築物等の強靱化対策
	一部が津波時避難場所から徒歩圏外	・ 避難場所等の指定・整備
	高齢者人口密度が高い	・ 町内会単位等での防災意識の向上
土砂	居住誘導区域に土砂災害警戒区域が存在	・ 町内会単位等での防災意識の向上
	高齢者人口密度が高い	・ 町内会単位等での防災意識の向上

### 本輪西町

災害	分析結果	取組（案）
津波	一部が津波時避難場所から徒歩圏外	・ 避難場所等の指定・整備
	避難の際の道路勾配が大きい	・ 避難行動要支援者の避難体制の確保
土砂	居住誘導区域にレッドゾーンが存在	・ 居住誘導区域の見直し
	居住誘導区域に土砂災害警戒区域が存在	・ 町内会単位等での防災意識の向上

# 目次

0. はじめに
1. 立地適正化計画 防災指針の役割
2. ハザード情報の整理
3. 災害による危険性の高い地域の分析
4. 災害別の課題
5. 取り組み方針（案）
6. 地域別の取組（案）
7. 防災まちづくりの目標値（案）

## 7. 防災まちづくりの目標値（案）

- 防災指針に示す取組を実施し、防災まちづくりの達成状況を評価するため、取組方針1～3に対応する項目の目標値を設定する。目標値は下記案を参考に今後検討する。※取組方針4「国や北海道と連携したまちなかの防災・減災対策の推進」については国や北海道と連携することが基本的な取組みであることから目標値は設定しない。
- 現行の室蘭市立地適正化計画に示した目標値（モニタリング指標）とともに、防災に関する目標値も定期的にモニタリングを行う。

対応する取組方針	項目（案）
<b>取組方針1：</b> 利便性と安全性を両立 するまちなかを創出	✓ 公共建築物の定期的な点検の実施回数
	✓ 自主防災組織活動カバー率
	✓ 地域で開設・運営する避難所の確保地区数
	✓ 福祉避難所の指定数
<b>取組方針2：</b> 居住地域の特性に応じた 市民一人一人の防災 力の強化	✓ 防災訓練・研修の支援回数
	✓ 自主防災組織活動カバー率（再掲）
	✓ 出前講座および防災セミナー開催数
	✓ 防災教育の実施学校数
<b>取組方針3：</b> 人命を守るための地域 特性に応じた避難体制 の確保	✓ 情報伝達訓練・避難訓練・津波避難訓練の実施回数
	✓ 災害時の避難所情報の活用方法等の周知回数
	✓ 地域で開設・運営する避難所の確保地区数（再掲）
	✓ 避難行動要支援者 個別計画の作成率
	✓ 避難確保計画策定件数